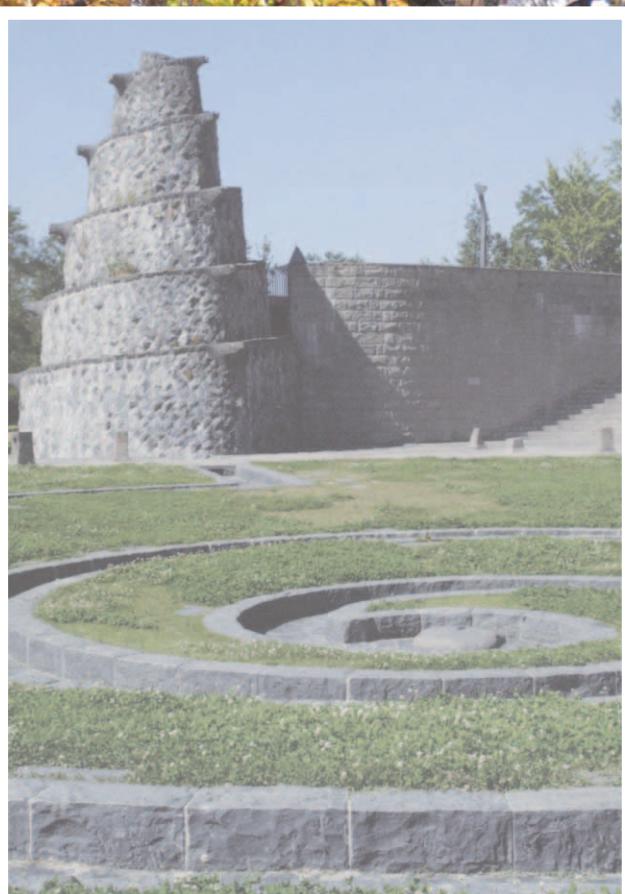


平成27年
創立20周年記念誌



芸術の森地区連合会

冬の空沼岳

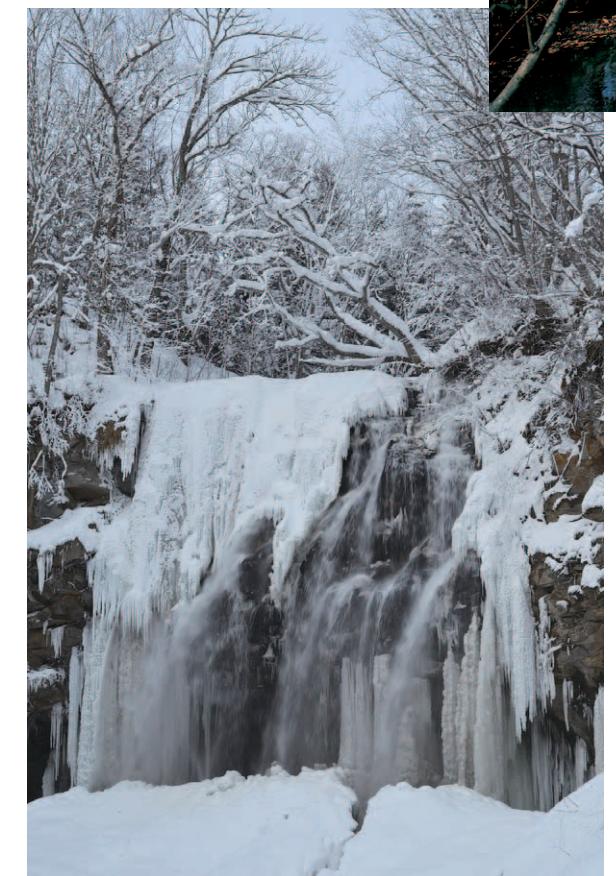


雪あかりの祭典

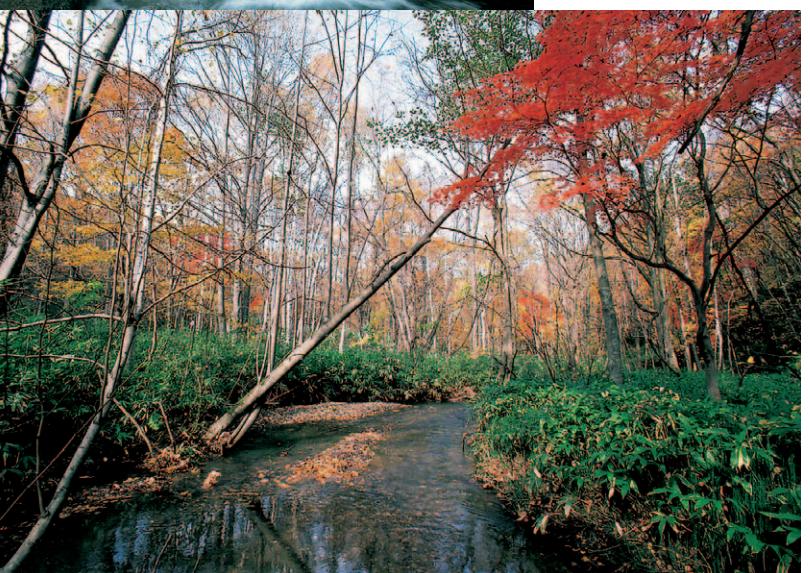




真駒内川
空沼岳登山口付近



アシリベツの滝



精進川

芸術の森地区の鳥・木・花

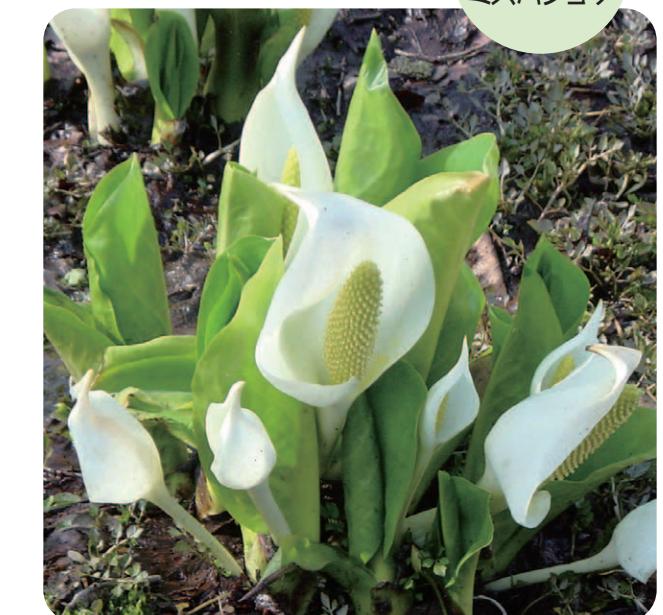
鳥
ヤマセミ



木
ミズナラ



花
ミズバショウ



石山東7丁目付近

2008年(平成20年) 航空写真



1947年(昭和22年) 航空写真 提供者：桐越 陽一 氏





「札幌軟石」を発見した人

北海道開拓使に招かれたアメリカ人一行(明治4年)

中央のアンチセル氏が発見、採掘を示唆した。左から二人目が開拓使顧問ケプロン。



現・札幌軟石採掘現場 常盤150番10号



薪能 平成9年8月
第1回 石山緑地芸術祭
ネガティブ・マウンドにおいて
中央は狂言師 野村 萬斎



丸太雪送(滝本氏提供)



シンボル彫刻
空と地の軌跡
伊藤隆道作



田の草取り風景
(現在、石山東)



札幌市立大学



石山緑地

石山緑地
ネガティブ・マウンド



芸術の森地区ソフトボール大会



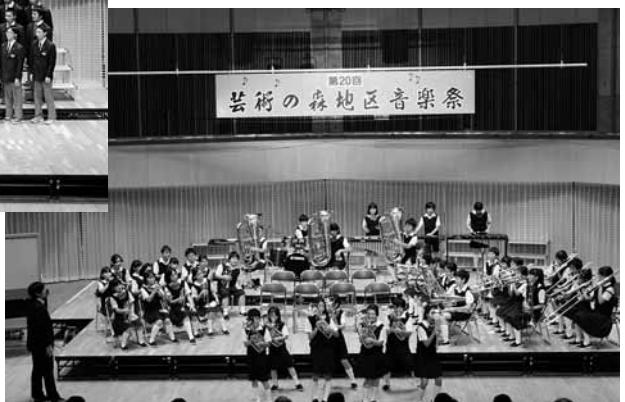
芸術の森地区大運動会



芸術の森地区スノーフェスティバル



芸術の森地区パークリング大会



芸術の森地区文化祭



芸術の森地区交通安全街頭啓発 石山東小学校前



滝野開拓記念碑



厚別水車器械所跡碑

平成27年

創立20周年記念誌

芸術の森地区連合会



常盤開基百年記念碑



豊平・真駒内開拓記念碑



望豊碑



開拓記念碑
(石山8区)



開拓記念碑 (真駒内 3団)



開拓記念碑
(駒岡)

目次

卷頭言

- ② 連合会20周年記念誌の刊行に寄せて
芸術の森地区連合会長 鈴木 久夫
- ③ 芸術の森地区20周年記念誌の発刊に寄せて
札幌市 南区長 高野 鑿
- ④ 芸術の森地区の現況
- ④ 芸術の森地区連合会20年の歩み
- ⑯ 構成町内会の素顔
- ⑳ 芸術の森地区の沿革
- ㉕ 芸術の森地区発展小史
- ㉗ 編集後記

創立20周年記念誌の発刊に寄せて



芸術の森地区連合会会長
鈴木 久夫

『国破れて山河在り』戦後復興から70年の年、世情は何やらかな臭さを増す昨今の政治情勢。

我が連合会も今年で20年の節目を迎えました。

平成17年の記念誌の中に連合会立ち上げに先達の御苦労の一端が紹介されておりましたが、辛苦の苦労に町民一同改めて感謝申し上げます。

さて、過ぎし10年の間には、平成18年4月に札幌高専が札幌市立大学に生まれ変わり、現在の札幌市芸術文化財団の芸術の森事業部、東京以北随一の滝野すずらん丘陵公園、広大な滝野霊園等々。

『孟母三選の教え』ではないが、教育、文化、芸術の街としてその体裁は整っており、交流人口も大幅に増加していると思われます。

また、平成22年1月から、まちづくりセンターの自主運営化、平成23年4月には町内会連合会とまちづくり推進会議が合併をし「芸術の森地区連合会」となり、行政には市民自治を行う地域に対し、惜しまぬご協力をいただいているところです。

戦後の第一次、第二次ベビーブームも終焉し、今はまさに少子高齢化時代と共に人口減少時代に入ってきた。人生に栄枯盛衰があるように、連合会もこれが当てはまります。

平成17年度4月の人口は11,138人（町内会加入世帯3,369）でしたが、平成27年度4月では10,913人（町内会加入世帯3,223）と減少傾向にあります。

現在、芸術の森地区内で小学校の統廃合の問題が浮上してきています。少子化が進行している現れでしょう。高齢化の現象は止めようがありませんが、若い世代の転入にどう取り組むべきなのか。教育、文化、芸術の街としての誇りを守り、その遺産を活用したまちづくりはどうあるべきなのか、今後の大変な課題と思われます。

これから30年への歴史に向けて『70にして耳順』精神で若者の創造的な発想を取り入れて魅力あるまちづくりの改革が出来ればと、強い而今決意であります。

過ぎしこの10年間に多大なご指導、ご鞭撻を賜りました南区役所、札幌芸術の森、札幌市立大学、社会福祉協議会、南区内の各連合町内会及び関係諸団体の皆様に敬意を表し、感謝申し上げます。

終わりとなりますが、20周年記念誌の発刊にあたり編集委員各位の御苦労に感謝申し上げ結びといたします。

芸術の森地区20周年記念誌の発刊を祝して



札幌市 南区長
高野 馨

このたび、芸術の森地区連合会が創立20周年という節目を迎えられ、その記念誌が発刊の運びとなりましたことを、心からお慶び申し上げます。これもひとえに鈴木会長をはじめ、歴代の会長及び役員の皆様ならびに芸術の森地区にお住まいの皆様のご尽力と熱意の賜物であると心より敬意を表します。

芸術の森地区は、本市の文化・芸術振興の拠点である「札幌芸術の森」のお膝元であり、連合会創設時から、「音楽祭」や「文化祭」等、芸術や文化活動に熱心に取り組まれてまいりました。平成18年策定の同地区まちづくりビジョンにおいては、「芸術・文化を誇りに思える環境づくり」を進めるとし、札幌市立大学等と連携し、「雪あかりの祭典」などを開催しておられます。

また、昨年、札幌市で初めて開催された国際芸術祭では、国際芸術祭の看板を作成・設置したり、円山動物園のジオラマや動物の折り紙を作成し、展示していただく等、多大なご協力をいただきました。このような取組を通じ、芸術の森地区では、活気と潤いのある同地区ならではの地域活動が行われております。

一方で、芸術の森地区では、まちづくりセンターの自主運営が6年目を迎えて、地域自ら主体的に考え、決定し、実践していくという理念を着実に実現しております。「子どもの見守り活動」や「一斉清掃活動」等、力を入れてこられた取組に加え、20周年記念事業として、今年からスタートする「ふれあいの桜並木事業」では、地域のボランティアの方の協力を得て、真駒内川沿いに桜並木を作り、新たな地域の名所とする取組が進められております。

今後も、地域の皆様の活動がより一層活性化していくことを期待しているところでございます。

札幌市では、本年5月に就任した秋元市長が、人を大事にするということを原点に据え、地域の実状をしっかりと見つめ、市民、企業、行政が知恵を出し合い、地域課題の解決に全力で取り組む「徹底した地域主義」でまちづくりを進めることとしております。南区役所といたしまして、このような市長の方針に基づき、地域住民の方が主体的に取り組まれるまちづくり活動を、今後ともしっかりとサポートしてまいりたいと考えております。

結びになりますが、芸術の森地区連合会の皆様の永年にわたるご尽力に深く感謝申し上げますと共に、芸術の森地区の更なるご発展を心からご祈念申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

芸術の森地区の現況

芸術の森地区は、札幌市の南に位置し、行政地域は石山東、常盤、駒岡・真駒内、滝野・石山からなっています。

学校

石山中央幼稚園・ときわみなみの幼稚園・石山東小学校・常盤小学校・駒岡小学校・北海道札幌養護学校もなみ学園分校・常盤中学校・札幌市立大学芸術の森キャンパス

公園

国営滝野すずらん丘陵公園・石山緑地・真駒内川緑地石山・石山東公園・常盤公園・真駒内虹の緑地・真駒内川緑地常盤・街区公園35ヶ所

スポーツ施設

石山緑地(テニス・ゲートボール)・真駒内川緑地(石山)(テニス・野球・ゲートボール)・真駒内川緑地(常盤)(パークゴルフ)・石山東公園(テニス・野球・ゲートボール)・芸術の森スポーツ広場(テニス・少年野球・サッカー・バスケット)・国営滝野すずらん丘陵公園(パークゴルフ・歩くスキー)・真駒内カントリークラブ(ゴルフ)・札幌ガーデンヒルズしらかばゴルフ場(パークゴルフ・ゴルフ)・札幌南ゴルフクラブ駒岡コース(ゴルフ)・常盤台ゴルフ場(ゴルフ)・滝野カントリークラブ(ゴルフ)・Yurikoサッカー場(サッカー)・パークヒル真駒内(パークゴルフ)

公共等施設

滝野自然公園・常盤児童会館・芸術の森地区会館・芸術の森地区まちづくりセンター・石山東簡易郵便局・芸術の森郵便局・札幌市南老人福祉センター・保養センター駒岡・札幌市青少年山の家

町内会館

石山東平和会館・常盤団地会館・サンブライト会館・滝野会館・石山八区会館・常盤一区会館・常盤二区会館・駒岡地区開拓記念会館・アートパーク会館・真駒内三団会館

福祉施設

特別養護老人ホーム和幸園・養護老人ホーム静山荘・ケアハウスローザガーデン・障害者支援施設グリンハイム・障害者支援施設南陽荘・障害児入所施設もなみ学園・有料老人ホームあばろん常盤・あつとほーむ石山東・ファミリードクターズホーム札幌南II 他 介護施設17施設

文化施設

札幌芸術の森・関口雄揮記念美術館

神社・寺・靈園等

駒岡神社・真駒内三団神社・常盤神社・滝野神社・石山開拓神社・高野山大師教会芸術の森支部・舍利山仏願寺本山・日蓮宗本覚教会・南禪院・南禪院本堂・真駒内滝野靈園・滝野墓地・大忍禪寺

芸術の森地区に所在する街区公園

(平成27年10月)

石山みはらし 石山東たんぽぽ 見晴なかよし 石山東にこにこ 石山こだま 石山東ひだまり 石山東そよかぜ	石山さくら ときわ西 石山ふたば 石山東ほかほか ときわ北 石山東なかよし ときわ中央	ときわお日様 ときわ南 常盤せせらぎ 真駒内プリズム ときわライラック ときわさくら ときわみはらし	ときわうぐいす ときわたんぽぽ ときわアートの丘 ときわプレイング ときわやまなみ 常盤台 常盤いこい	常盤山の手 常盤やまびこ 常盤みずなら ときわしらかば 真駒内あさひ ときわかけす 真駒内ピノキオ
---	---	--	---	---

芸術の森地区連合会20年の歩み

■過去20年間の地区連合会主催の主な事業・行事

主な事業ならびに行事	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17
広報誌の発行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交通安全啓蒙・啓発活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
防犯、防災の啓蒙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術の森地区文化祭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術の森地区音楽祭		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術の森地区大運動会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術の森地区ソフトボール大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
健康運動教室											
雪まつりの祭典											
ヤマメ稚魚の放流											
森の仲間の子どもを見守るネットワーク										○	
疑似鳥居の設置											

●地区連合会協賛・後援事業

こまおか朝市											○
駒岡ミニディサービス事業											
森の朝市											
もりの仲間の子育てサロン											○

H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	備 考
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	地区会館・アパホテル前・各小中学校前
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	研修等の実施
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	平成27年で21回目を迎える
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	平成27年で20回目を迎える
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	初回常盤小で開催後石山東小との交互開催
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	初回常盤小で開催後石山東小との交互開催
				○	○	○	○	○	○	コンサドーレのインストラクターによる健康教室
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	札幌芸術の森、石山緑地、保養センター駒岡等
					○	○				札幌芸術の森の真駒内川で放流、(H26災害で中止)
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	子ども「110番の家」の普及、スタンブラーの実施
					○	○	○	○	○	不法投棄対策として、疑似鳥居の設置(10ヵ所)

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	社協・駒岡保養センター共催
○	○	○								社協主催
			○	○	○	○	○	○	○	朝市クラブ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	社協主催

主な事業・行事の概要

芸術の森地区 文化祭

1995年(平成7年)に第1回の芸術の森地区文化祭を芸術の森地区会館で開催しましたが、回を重ねるごとに出品者・出品数が増え、会場の狭隘が問題となっていました。

2012年(平成24年)、札幌芸術文化財団・芸術の森の協力を得て、札幌芸術の森・工芸館をお借りすることができることになり、同年の第18回から会場を札幌芸術の森・工芸館へ会場を移して開催しています。

工芸館は、芸術の森地区会館の約3倍の広さがあり、地域の学校関係、福祉関係施設の方々からも出品をいただくなど、移転してからは、さらに出品者・出品数、来場者も増え、盛況を博しています。

また来場者の方々も、ゆったりとしたフロアと落ち着いた雰囲気の中で、出品者の方から作品についての説明を受ける姿も見られ、力作を堪能いただいております。

2014年(平成26年)には、20回目の開催を数え、これからも地域の皆さんをはじめ、地域の学校、福祉関係施設、町内会や老人クラブの方々の協力を得ながら、地域の皆さんの作品の発表の場に相応しい文化祭を目指してまいります。

芸術の森地区 音楽祭

1996年(平成8年)に「芸術の森地区ふれあい音楽祭」として常盤中学校吹奏楽部と常盤小学校ビッグ・トゥリーズが出演し、常盤中学校で開催されました。

1997年(平成9年)から芸術の森地区女声コーラス「コラル・ラ・フォレ」、1998年(平成10年)から老人クラブ常盤明常会の民謡サークル「森声会」が加わり、出演者の輪が拡がってきました。

1999年(平成11年)の第4回から、芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)が主催者に加わり、「芸術の森地区音楽祭」と改称しました。

翌、2000年(平成12年)の第5回から、会場を札幌芸術の森・アートホールをお借りしての開催となり、地域の小学校、中学校の合唱と器楽演奏、コーラス、ジャズバンド、邦楽、ピアノ演奏など毎回、多くの団体、個人の方の出演をいただき、地域の皆さんのが参加する音楽祭に発展してまいりました。

2004年(平成16年)の第9回からは、札幌市芸術文化財団・芸術の森が主催者に加わり、音楽祭もより一層充実したものとなり、聴衆される方も回を重ねるごとに増えてきています。

地域の皆さんに楽しんでいただいている芸術の森地区音楽祭も、2015年(平成27年)で第20回を迎えました。

フィナーレに会場の皆様と歌う「ふるさと」の歌声がさらに大きく芸術の森にこだまするように、これからも、芸術の森地区に相応しい、聴衆される方に満足いただける音楽祭を目指してまいります。

芸術の森地区 文化マップ作成

2001年(平成13年)9月、南区主催の芸術の森地区住民と意見交換を行う「マイタウントーク芸術の森」が開催され、町内会側からまちづくり推進事業の一環として、「芸術の森地区文化マップ作成」の提案がありました。

芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)は、札幌市立高等専門学校(現市立大学)の協力を得て、3年計画で「芸術の森地区文化マップ」を作成しました。

初年度の2002年(平成14年)は、『人物編』を作成。

豊かな自然環境や芸術文化活動に適した芸術の森地区を拠点に、音楽、美術、工芸などの文化活動やスポーツなどの様々な分野で活躍されている86名の方を分野別に紹介しました。

2003年(平成15年)は、『景観編』を作成。

芸術の森地区は、石材採掘や造材など明治の開拓期以来の歴史と伝統を伝える歴史的建造物や空沼岳、滝野丘陵、真駒内川、精進川などに代表される豊かな自然と緑。札幌芸術の森、石山緑地、関口雄揮記念美術館などの芸術文化的環境にも恵まれています。

この恵まれた環境の中で、先人達の遺した歴史的遺産、動植物などの自然景観、芸術的なデザインの建造物など様々な景観が数多くありますが、遺産と町並み、自然景観、地域に生息する動植物に焦点を絞り、建造物39点、町並み10点、自然景観36点、動物16点、植物27点を掲載しました。また、住民の方からも数多くの写真の提供もいただきました。

2004年(平成16年)は『地域活動編』を作成。

芸術の森地区には芸術・文化・趣味・スポーツなど地域で活躍されている団体があります。

これらの団体やサークルを紹介し、前2編と一体化し、各団体やサークルの写真撮影、また写真の提供を受け、地域の夏、冬祭りなどの行事20点、文科系の同好会25点、体育系の同好会19点、ボランティア団体13点、少年団体7点、常盤体育振興会と芸術の森東地区スポーツ振興会から各1点を掲載しました。

広報誌「地区 広報・芸術の 森」の発行

1995年(平成7年)6月15日に芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)の広報誌「やませみ」の創刊号を発行し、定期発行は、2004年(平成16年)1月25日までに22号、特集号は、1999年(平成11年)9月1日に第1号を発行し、通算で5号を発行しました。

2004年(平成16年)に「やませみ」と芸術の森地区社会福祉協議会広報誌「ばんけいぬま」、芸術の森地区青少年育成委員会広報誌「森のこえ」の3誌を統合し、芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)広報誌「地区広報・芸術の森」と改称し、芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)、芸術の森地区社会福祉協議会、芸術の森地区青少年育成委員会の3者で共同発行することとしました。

「地区広報・芸術の森」の創刊号は、2004年(平成16年)10月4日に第1号を発行。以後年3回発行し、2015年(平成27年)11月30日の発行で第33号を数えています。

芸術の森地区 雪あかりの祭典

2007年(平成19年)1月、見晴町内会が開催していた「雪あかり」の行事を、芸術の森地区まちづくり推進事業の一環として発展させていくことを目的に、見晴町内会と札幌南老人福祉センターの協力を得て、第1回芸術の森地区「雪あかりの祭典」を開催しました。

以後、札幌芸術の森、札幌市立大学、関口雄揮記念美術館、札幌市常盤児童会館、札幌市立駒岡小学校、札幌市南老人福祉センター・石山緑地、札幌市保養センター駒岡、芸術の森地区会館の8か所を会場に、毎年、1月下旬頃から2月中旬頃までの約1か月の間に順次開催し、南区の冬の祭典の一つとして、多くの方の目を楽し

主な事業・行事の概要

ませています。

また、毎年、12月中旬頃から2月中旬頃までの間、「ウェルカムロード・イルミネーション」として、地域の方々の協力を得て、国道453号線沿いをイルミネーションでつなぐ事業にも取り組んでいます。

芸術の森地区 シンボルマーク

2010年(平成22年)に、芸術の森地区町内会連合会とまちづくり推進会議を統合し、芸術の森地区連合会として新たなスタートを切ったことを記念し、2011年(平成23年)5月に地区広報・芸術の森を通じて「芸術の森地区シンボルマーク」を募集したところ、地域住民の方や地域の学校関係の方などから28点の応募がありました。

7月の連合会理事会で選考の結果、「真駒内川の清らかな流れと、町内をつなぐ幹線道路・真駒内通の道筋」をモチーフとし、併せて「BEAUTIFUL TOWN」をキャッチコピーとして提案した、札幌市立大学の学生さんの作品が優秀賞に選ばれました。

現在、芸術の森地区連合会で作製する交通安全の旗、見守り活動の啓発品などに使用しています。

ヤマメ稚魚の 放流

地域を流れる真駒内川にサクラマスが遡上する姿を見たい。そんな思いから、一般社団法人・北海道山女魚を守る会の指導、協力を得て、2012年(平成24年)5月19日に札幌芸術の森の中を流れる真駒内川へ、2年後にサクラマスとなって帰ってきてとの願いを込めて、地域の皆さんが約25,000匹のヤマメ稚魚を放流しました。

翌、2013年(平成25年)多くの地域の皆さんが集まり、無事成長して戻ってくることを願いヤマメ稚魚を放流しました。

しかし、2014年(平成26年)は、放流予定日の数日前から雨が降り続き、放流当日は風も強く、放流場所の足場が悪く中止となりました。

2015年(平成27年)は、前年の9月11日の豪雨により、放流場所が崩壊したため中止。放流場所が修復されるまで中断することとなりました。

真駒内川を遡上しているサクラマスを見つけましたら、それは2012年(平成24年)と2013年(平成25年)に放流したヤマメ稚魚がサクラマスに成長して真駒内川を遡上してきているのではないでしょうか。そんなロマンのある事業を早く再開したいと思っております。

芸術の森地区 安心安全マップ 作成

芸術の森地区は、山や河川等自然地形の豊かな中に町が形成され、自然災害への備えが重要な地域のため、2013年(平成25年)3月に芸術の森地区の防災マップ(安心・安全マップ/A1版)を作成し、芸術の森地域の全戸に配布しました。

マップには、避難場所、AED設置場所、防災機材保管場所等を表示し、緊急時の連絡先等の必要な情報を掲載しました。

その後、2014年(平成26年)の土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域指定や9月11日の豪雨災害を受け、札幌市が作成する「札幌市土砂災害避難地図(ハザードマップ)【芸術の森地区連合会版】」の作成にあたり意見要望を申し入れ、2015年(平成27年)4月に芸術の森地域の全戸に配布されました。

ホームページ (芸術の森地区 連合会・まちづ くりセンター)

2010年(平成22年)のまちづくりセンターの自主運営、2011年(平成23年)の「芸術の森地区連合会」の発足を機に、芸術の森地区連合会とまちづくりセンターの二つの情報発信を目的として、2004年(平成16年)にGNC(芸森ネットコミュニケーション)によって立ち上げられたホームページをリニューアルして、2011年(平成23年)の秋から公開しました。

芸術の森地区連合会とまちづくりセンターからのお知らせや行事、地域の情報などを掲載しています。 <アドレス> <http://www.geimori.com/>

芸術の森地区 ソフトボール大会 大運動会

2005年(平成7年)、芸術の森地区町内会連合会(現芸術の森地区連合会)の発足の年に、地域の14町内会(当時)の交流と親睦を目的に、ソフトボール大会と老若男女を問わず参加できる運動会のそれぞれ第1回大会を開催しました。

大会は、地域の町内会を7つのチームに分けて、ソフトボール大会はトーナメント方式で、運動会は団体種目での得点で競い合い、毎年、白熱した大会となり大いに盛り上がっています。

ソフトボール大会は、石山東公園グランドと札幌市立石山東小学校のグランドをお借りして、運動会は、隔年ごとに札幌市立常盤小学校のグランドと札幌市立石山東小学校のグランドをお借りして実施しています。

記念すべき第1回大会の優勝は、ソフトボール大会は石山東チーム、大運動会は常盤・空沼チームでした。

2014年(平成26年)に、第20回を数え、これからも地域の町内会の交流、親睦の場として楽しんでいただける大会を目指してまいります。

シニック バイウェイ

シニックバイウェイとは、シニックは景観のよい、バイウェイはわき道・寄り道を組み合わせた言葉で、道内では14のルートが景観や観光資源を生かした、まちづくりに取り組んでいます。北海道外では「日本風景街道」の名称で同様の取り組みが広がっています。

芸術の森地区では、国道453号線を念頭に当時の「街づくり推進会議」を中心に、2004年(平成16年)から検討を重ねワークショップを開いて、住民の意見を聞いてまとめてきました。当地区には芸術の森・滝野すずらん丘陵公園など文化施設、集客施設などが多く、これらを街づくりに取り入れていくことでした。また、芸術の森地区のみならず、国道230号線沿いの連合会(石山・藤野・簾舞・定山渓)にも呼びかけて、札幌南エリアを含めたルートを新設・組織化していくことにしました。名称は「札幌シニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」として、「住んでよし、訪れてよし」をテーマに活動しています。雪あかりの祭典・ウェルカムロードイルミネーション・花を咲かせる会・見学会・スタンプラリーなど地域住民が行う活動や、地域の見どころを巡る活動をして実績を重ねて、2011年(平成23年)7月にルート認定の認可を受けました。当初から三つの関連部会(景観づくり・地域づくり・観光空間づくり)を組織化して活動しており、現在は南区全10連合会も参加しております。(連合会・集客施設等40団体参加)

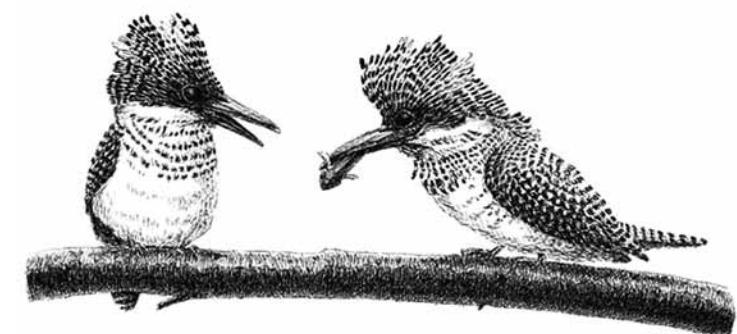
芸術の森地区連合会役員名簿 (H 7～H17)

年次 役職名	平成7年		平成8年		平成9年		平成10年		平成11年	
	氏名	所属								
会長	佐々木佐一	①	佐々木佐一	①	伊藤 正	⑩	伊藤 正	⑩	伊藤 正	⑩
副会長	星 重男	②	高橋 稔一	⑦						
副会長	櫛引 清和	⑬	櫛引 清和	⑬	櫛引 清和	⑬	中野 務	⑥	中野 勿	⑥
副会長	伊藤 正	⑩	伊藤 正	⑩	高橋 稔一	⑦	高橋 稔一	⑦	片山富次郎	②
総務部長	伊藤 正	⑩	伊藤 正	⑩	高橋 稔一	⑦	高橋 稔一	⑦	高橋 稔一	⑦
同副部長	高橋 稔一	⑦	高橋 稔一	⑦	高橋 登	①	高橋 登	①	藤沢 昭	⑨
同副部長	定池 教章	⑤	関口 明	④						
同副部長					杉村 英紀	⑨	藤沢 昭	⑨	若松 禮吉	⑧
企画部長										
文化体育部長	星 重男	②	星 重男	②	中野 勿	⑥	中野 勿	⑥	中野 勿	⑥
同副部長	佐藤 優司	⑭	高橋 登	①						
体育部長										
同副部長										
青少年部長										
防犯防災部長	八木 隆清	⑧	八木 隆清	⑧	八木 隆清	⑧	酒井 正人	⑧	定池 教章	⑤
同副部長	中野 勿	⑥	中野 勿	⑥	中野 勿	⑥				
交通安全部長	館岡 武治	④	館岡 武治	④	星 重男	②	星 重男	②	井村 愿之	⑭
同副部長	亀谷 芳夫	③	亀谷 芳夫	③	長野 哲三	⑫	長野 哲三	⑫	菅原 繁利	⑫
環境衛生部長	櫛引 清和	⑬	櫛引 清和	⑬	館岡 武治	④	館岡 武治	④	片山富次郎	②
同副部長	菅原 一郎	⑫	菅原 一郎	⑫						
福祉理事										
福祉部長					櫛引 清和	⑬	加藤 義満	⑬	加藤 義満	⑬
同副部長										
女性部長	二俣とみ子	⑯	杉村 和子	⑯	前田 恒子	⑯	定池 光子	⑯	代南都悦子	⑯
監事	今田 三雄	⑪	今田 三雄	⑪	亀谷 芳夫	③	亀谷 芳夫	③	亀谷 芳夫	③
監事	佐々木鉄良	⑨	杉村 英紀	⑨	小笠原信義	⑪	小笠原信義	⑪	佐々木正市	⑪
まちづくりセンター所長	大木 章敬		大木 章敬		田口 利昭		田口 利昭		田口 利昭	

所属記号

- ①見晴町内会
- ②石山東町内会
- ③石山八区町内会
- ④常盤団地町内会
- ⑤常盤台町内会
- ⑥常盤一区町内会
- ⑦アートパークタウン町内会
- ⑧サンブライド真駒内町内会
- ⑨常盤二区町内会
- ⑩滝野町内会
- ⑪真駒内三団町内会
- ⑫真駒内二団町内会
- ⑬真駒内駒岡町内会
- ⑭駒岡団地町内会
- ⑮芸術の森地区社会福祉協議会
- ⑯常盤体育振興会
- ⑰芸術の森東地区スポーツ振興会
- ⑱芸術の森地区連合会女性部
- ⑲常盤中学校区青少年健全育成推進会

平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年	
氏名	所属										
伊藤 正	⑩	高橋 稔一	⑦								
高橋 稔一	⑦	中野 勿	⑥	関口 明	④						
中野 勿	⑥	片山富次郎	②	片山富次郎	②	片山富次郎	②	片山富次郎	②	古田 雅一	①
片山富次郎	②	関口 明	④	近藤 勇	⑥						
高橋 稔一	⑦	関口 明	④								
藤澤 昭	⑨	西野 忠士	⑧	西野 忠士	⑧	西野 忠士	⑧	村井 淳一	⑧	村井 淳一	⑧
関口 明	④	藤澤 昭	⑫	藤澤 昭	⑫	安部 泰民	①	古田 雅一	①		
西野 忠士	⑧										
中野 勿	⑥	菅原 一郎	⑫								
高橋 登	①	安部 泰民	①	安部 泰民	①	宮下 正	⑫	宮下 正	⑫	伏見 豊彦	⑭
古内 昭	⑯	佐藤 優司	⑯								
佐藤 優司	⑯	古内 昭	⑯								
大村 秀明	⑯	古内 昭	⑯								
定池 教章	⑤										
井村 愿之	⑭	近藤 勇	⑥								
菅原 繁利	⑫	工藤 昇	⑫	工藤 昇	⑫	田中 勝雄	⑪	田中 勝雄	⑪	今田 隆男	⑪
片山富次郎	②	堀川 昭八	②								
伊藤 正	⑯										
加藤 義満	⑬	伊藤 正	⑯	伊藤 正	⑯						
安藤 晃	⑯							加藤 義満	⑬	加藤 義満	⑬
志羅山郁子	⑯	吉澤 孝子	⑯								
亀谷 芳夫	③	亀谷 芳夫	③	田中 勝雄	⑪	藤澤 昭	⑫	藤澤 昭	⑫	藤澤 昭	⑫
佐々木正市	⑪	田中 勝雄	⑪	佐々 邦雄	③						
吉田 俊雄		梅村 敏和		梅村 敏和		紺野 晃郎		紺野 晃郎		石川 敏也	



芸術の森地区連合会役員名簿（H18～H27）

(H7～H22までは芸術の森地区町内会連合会)

年次 役職名	平成18年		平成19年		平成20年		平成21年		平成22年	
	氏名	所属								
会長	高橋 稔一	(7)	関口 明	(4)						
副会長	関口 明	(4)	堀川 昭八	(2)						
副会長	古田 雅一	(1)	村井 淳一	(8)	織田 栄	(6)	蓑輪 博	(1)	蓑輪 博	(1)
副会長	近藤 勇	(6)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)
総務部長	関口 明	(4)	村井 淳一	(8)	織田 栄	(6)	大野 勝	(6)	大野 勝	(6)
同副部長	村井 淳一	(8)	塩崎 典男	(14)	野寄 道夫	(7)	野沢 利文	(7)	野沢 利文	(7)
同副部長	伏見 豊彦	(14)								
庶務	伏見 豊彦	(14)								
会計部長	村井 淳一	(8)			佐々邦雄	(3)	佐々邦雄	(3)	斎田 雅也	(8)
企画部長	古田 雅一	(1)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)	島田三千春	(13)
同副部長	島田三千春	(13)	佐々木敏夫	(11)	佐々木敏夫	(11)	佐々木敏夫	(11)	佐々木敏夫	(11)
文化部長	菅原 一郎	(12)	織田 栄	(6)	塩崎 典男	(14)	塩崎 典男	(14)	塩崎 典男	(14)
同副部長			野寄 道夫	(7)	遠藤 敏光	(8)				
芸術文化部長										
同副部長										
交通安全部長	近藤 勇	(6)	大滝 盛弘	(5)						
同副部長	田中 勝雄	(11)					工藤 昇	(12)	工藤 昇	(12)
体育部長	佐藤 優司	(17)								
同副部長	古内 昭	(16)	古内 昭	(16)	古内 昭	(16)				
環境衛生部長	堀川 昭八	(2)								
同副部長										
防犯防災部長	定池 教章	(5)	蓑輪 博	(1)						
同副部長			菅原 繁利	(12)	菅原 繁利	(12)	佐野 豊則	(9)	佐野 豊則	(9)
福祉部長	伊藤 正	(10)	伊藤 正	(10)	伊藤 正	(15)	伊藤 正	(15)	伊藤 正	(15)
同副部長					齋藤 公博	(21)	齋藤 公博	(21)	齋藤 公博	(21)
青少年部長	古内 昭	(19)	古内 昭	(19)	古内 昭	(19)	大村 秀明	(20)	前口 敦司	(20)
女性部長	三上 良子	(18)								
監事	藤澤 昭	(9)	藤澤 昭	(9)	藤澤 昭	(9)	遠藤 敏光	(8)	佐々邦雄	(3)
監事	佐々邦雄	(3)	佐々邦雄	(3)	安藤 晃	(10)	安藤 晃	(10)	安藤 晃	(10)
まちづくりセンター所長	石川 敏也		野島 聰		野島 聰		大江 卓		富樫 秀雄	

平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
氏名	所属								
関口 明	④	鈴木 久夫	④						
島田三千春	⑬								
大野 勝	⑥	斎藤 公博	②						
斎田 雅也	⑧	斎田 雅也	⑧	斎藤 公博	②	斎藤 公博	②	山本 悟	①
島田三千春	⑬	島田三千春	⑬	馬場 弘	④	島田三千春	⑬	島田三千春	⑬
佐野 豊則	⑨	馬場 弘	④			佐藤 浩	⑯		
斎田 雅也	⑧	斎田 雅也	⑧	斎藤 公博	②	斎藤 公博	②	佐久間久幸	⑦
大野 勝	⑥								
		佐野 豊則	⑨	佐野 豊則	⑨	佐野 豊則	⑨		
塩崎 典男	⑭	塩崎 典男	⑭	島田三千春	⑬	島田三千春	⑬	大野 勝	⑥
								佐野 豊則	⑨
金子 侑	⑦	山本 悟	①						
寺田 利夫	③								
佐藤 優司	⑯								
								熊谷 伸顕	⑯
斎藤 公博	②	斎藤 公博	②	佐藤 浩	⑯	鈴木 久夫	④	斎藤 公博	②
				菅原 一郎	⑫	菅原 一郎	⑫	菅原 一郎	⑫
山本 悟	①	長谷川竣一	⑯						
宮下 正	⑫	宮下 正	⑫	佐々木敏夫	⑪	佐々木敏夫	⑪	佐々木敏夫	⑪
堀川 昭八	⑮	塩田 恒雄	⑮						
斎藤 公博	㉑	斎藤 公博	㉑						
前口 敦司	㉐								
三上 良子	⑯								
佐々木敏夫	⑪	新田 和明	⑪	斎田 雅也	⑧	斎田 雅也	⑧	斎田 雅也	⑧
安藤 晃	⑩								
富樫 秀雄		富樫 秀雄		富樫 秀雄		富樫 秀雄		坂本 千尋	

- | | |
|---------------|---------------|
| ①見晴町内会 | ⑧サンブライト真駒内町内会 |
| ②石山東町内会 | ⑨常盤二区町内会 |
| ③石山八区町内会 | ⑩滝野町内会 |
| ④常盤団地町内会 | ⑪真駒内三団町内会 |
| ⑤常盤台町内会 | ⑫真駒内二団町内会 |
| ⑥常盤一区町内会 | ⑬真駒内駒岡町内会 |
| ⑦アートパークタウン町内会 | ⑭駒岡団地町内会 |

- ⑯芸術の森地区社会福祉協議会
 - ⑰常盤体育振興会
 - ⑱芸術の森東地区スポーツ振興会
 - ⑲芸術の森地区連合会女性部
 - ⑳常盤中学校区青少年健全育成推進会
 - ㉑芸術の森地区青少年育成委員会
 - ㉒芸術の森地区民生委員児童委員協議会



構成町内会の素顔

見晴町内会

- ▶ 昭和46年創立
- ▶ 世帯数 310戸

当町内会は、概ね国道453号線沿いの東1丁目から3丁目までの区域で、昭和46年石山四区から独立、会員数70戸「石山四区見晴町内会」としてスタートしました。

昭和49年から真駒内川沿いで大規模な宅地造成が行なわれたこともあって次第に会員数が増大し、平成5年には法人格を有する「地縁団体見晴町内会」に変更し現在に至っています。見晴の名の由来は、石山陸橋側にある史跡・望豐台から見渡せる雄大な眺望（豊平川、藻岩山、砥石山そして遠くは空沼、札幌岳など）から来ています。

当町内は、「隣人愛」の精神を伝統としており、戸建て住宅が多い事もあって町内会への加入率はほぼ100%、各種町内行事への参加も活発で、特に納涼盆踊りフェスタ、雪あかりの祭典とスノーフェスタなどは、触れ合いと絆を深める絶好の場となっています。

また、芸術の森地区の玄関口として住民の美意識は高く、春から秋にかけての町内統一清掃日には毎回100名程度の参加があり、昭和50年、浄化実践運動成績優秀地区として、札幌市長・札幌衛生協力会長表彰、平成15年には、北海道衛生団体連合会表彰を受けています。

地域内の「札幌市南老人福祉センター（平成7年竣工）」では、オープン当初から地域ボランティア活動に積極的参加しているほか、相互協力のもとに地域交流の場、町内活動の拠点として広く利用されています。

石山東町内会

- ▶ 昭和46年創立
- ▶ 世帯数 620戸

現石山東地区を含む石山全域、旧称穴の沢で軟石が発見されたのは明治6年（1873年）、青森県八戸から欠端三平さんらが農作地開墾で入植したのが、同12年頃という、長い歴史を持つ地域であり、今年で開基143年になります。

のち、「地域的活動」としては、明治37年の「招魂碑・建立」事業がみられ、その後、大正12年に農業実行組合を結成したのが町内会の前身、更に昭和に入り石山四区部落会→昭和46年石山四区上町内会、そして平成2年（1990年）に現在の石山東町内会と改称、世帯数は620戸に発展してきました。

国道453号線をはさみ、東に清流真駒内川のせせらぎを聞く、山あいの自然豊かな環境に恵まれた町内会で、少年野球、ママさんバレー、そして老人クラブから連合会等各種大会のスポーツ分野ばかりではなく、地域安全（自主防災・要配慮者見守り支援等）活動、「クリーンさっぽろ“ゴミ減量”」活動、共同募金活動等優良地域として市長表彰等も受けています。

昭和51年から「歩こう会」、昭和52年から「ふるさと祭り・盆踊り大会」、その他「もちつき大会」、「遊びの会」等数多くの年間事業は、町内会員始め各層の声を得て始められたもので、何れも40回の声を聞く迄になりました。

石山東町内会は平成3年に制定した町内会記章、同会旗、更には平成13年の町内会創立30周年時作成した「石山東ふるさと賛歌“光さやかに”」の「清純」「協力」そして「気宇壮大」を心とし、長い伝統を受け継ぎ、近隣町内会共々、日々歩み続けます。

石山八区町内会

- ▶ 昭和21年創立
- ▶ 世帯数 38戸

石山八区は戦後先人達が開拓として入植、苦労して開墾しました。その間農業用として水道を敷設（財団法人心和合）して今に至っています。現在は地縁団体石山八区町内会水道部会として毎年、草刈施設、点検等町内で管理しておいしい水を供給しています。

現在40戸足らずの町内ですがその範囲は石山2号線沿いで細長く広い地域に及んで今に至っています。

自然に恵まれ緑豊かな町内ですが、ご多分にもれず高齢化が進んでいる中、畠等に精を出していますが、最近鹿やキツネの食害等で苦戦しています。

町内行事としては1月の新年会に始まり、石山開拓神社初詣、秋の参拝、2号線4号線7号線の草刈（8km）春秋清掃、婦人部懇親会、町内バス旅行等を行っています。

この間、愛全会ケアハウスローズガーデン養護老人ホーム静山荘、石山中央幼稚園、北海道ハピニス特別養護老人ホーム和幸園、障がい者支援施設グリンハイム等の施設が建設されています。

常盤団地町内会

- ▶ 昭和50年創立
- ▶ 世帯数 488戸

昭和45年、札幌市都市計画法の施行により、常盤地区の一部が市街化区域となり、農地の宅地化が進みました。とりわけ、現在の常盤団地町内会の一部に、常盤地区第1号の造成工事が行われました。昭和50年には43戸、その5月には住民有志が結束して町内会を結成して、生活基盤の整備に奮闘しました。住民集会場の確保・街路灯の設置・ごみ集積場の確保・冬期の除雪対策と難題を解消しつつ今に至っています。本年度は488戸（8月末現在）、当町内会創立40年の節目を迎えていまます。

当町内会は、国道453号線沿いにあり、常盤1号

橋下流には真駒内川の清流を擁し、東側・西側は山林に囲まれた自然豊かな閑静な住宅街に住む住民で構成されています。住民の集会施設として【常盤団地会館】を保有し、河川敷地を活用した【多目的広場】（別名；パークゴルフ場）が隣接しています。

会員相互が連携し、高齢者に優しく、子供たちの健やかな成長を願い、【安全・安心の街づくり】をモットーに日々活動が展開されています。

当町内会の活動は、定期総会後の春の一斉清掃に始まり子ども七夕祭り・花火大会、納涼盆踊り大会、夜間パトロール（平成25年；札幌南防犯協会表彰）、敬老会、自主防災訓練、秋の一斉清掃、新年交礼会と季節に応じて実施しています。冬季間には札幌市パートナーシップ除雪事業を活用して道路の除雪を行い、年間を通して環境整備に努めています。又、常盤団地福祉推進委員会と町内会が連携して高齢者の〈見守り活動を展開し、その孤立防止策を実施しています。

本年度、創立40周年事業の一環として街路灯のLED化を完了するとともに、多目的広場の整備と桜の記念植樹（連合会共催）、住民交流の拠点である常盤団地会館内部の全面リニューアルを行いました。



常盤台町内会

▶ 昭和20年創立
▶ 世帯数 10戸

(平成23年発展的解散・同時に常盤一区町内会に編入する)

昭和20年、東京在住者で「東京開拓団」が編成され、その一団が本地に入植、開拓に従事したのが本町内会の始まりです。

当時20戸の入植者で開墾事業に努力しましたが、土地状況が厳しく、次第に戸数が減り、現在ではその後継続家族も4戸しか残っていません。

「芸術の森」が、町内区域の真ん中に敷設され町内区域は芸術の森を挟んで上下に分かれた町内地域になりました。現在10世帯の町内会です。文字通り自然に恵まれた中でお互い静かに協力し合って生活を営んでいます。

その中でも石山水道組合の運営する水道水は自慢の一つで、自然湧水の上水道です。

平成23年には長年要望事項であった市の下水道が「市道石山三号線」沿い256.75mに敷設され衛生的にも素晴らしい環境になりました。

また、この年常盤台町内会を解散して常盤一区町内会に編入させて頂きました。

元々地区行事の多くを協賛事業として組んでいた事であり、町内会加入も住居の近い位置の班に加入し常盤一区町内会会員として地域活動に参画しています。

常盤一区町内会

▶ 明治34年創立
▶ 世帯数 701戸

明治34年、石川県から中川千吉を中心とした開拓団が開拓の鉢を下して以来、本年(平成27年)開基114年を迎えた長い歴史を持つ町内会です。

「常盤」という地名には、厳しい冬にも緑の葉を落とすことのない常盤樹のように、住民の幸福と自然豊かな故郷が永遠でありますようにという、先人の強い願いが込められています。

道々札幌支笏湖線（現国道453号）開通以来、人口が増加し、「札幌芸術の森」開設後に更に顕著になりました。平成23年には、隣接していた

「常盤台町内会（昭和20年創立）」を編入し、新しい歴史と貴重な人材が加わりました。

明治43年には地域住民の手によって土場特別教育所が開設されてから、学校を中心とした歴史に育まれた力強い教育力は、私達町内の誇りです。幼稚園、小・中学校、市立大学等の充実した教育機関、関口雄揮記念美術館等の文化芸術施設と共に、清流真駒内川に残された美しい小渓谷は地域の大切な宝です。

アートパークタウン町内会

▶ 平成元年創立
▶ 世帯数 537戸

昭和63年に第1期・456区画、平成8年に第2期・112区画、平成15年に第3期あゆみの丘・140区画に順次居住を開始、平成27年6月には537世帯となりました。今後も転入者が見込まれる緑豊かで静寂な環境の住宅街です。

町内会は平成元年10月に66世帯で設立されました。平成11年に創立10周年、平成22年には創立20周年記念誌を発行しました。旧町内会館の落成は平成8年11月、平成25年3月には新町内会館が完成しました。

町内の世帯構成は高齢化が進む一方で、ここ数年は特に若い世代の転入が多く、休日には公園や常盤ハリケーン球場、ときわスポーツコミュニティ広場から子供たちの歓声が聞こえてきます。平成27年7月開催の、芸術の森地区ソフトボール大会で優勝、8月には同地区運動会で2連覇を達成しました。

「明るく住みよい町内会づくり」を目指して、町内ではさまざまな活動を行っています。

- ① 「森のしづく」 町内会広報誌として平成8年創刊、平成27年5月には第51号発行、町内の身近な話題を紹介し、町内会活動の歩みなどを記録しています。
- ② 「なまゴミ減らし隊」 ゴミ減量のため町内4ヶ所の街区公園の刈り草を堆肥盤に投入、街路樹花壇に利用してリサイクルを実施しています。
- ③ 「プラチナクラブ」 60歳以上の会員で構成され、明るく健康な老後生活を送るため「会員相

互の親睦、健康増進、福祉の向上を図り、地域の社会活動に協力する。」を目的に活動しています。

町内会独自の取組みとしては、春の町内一斉清掃と野外ジンギスカン懇親会、敬老会、高齢者日帰り研修旅行、サンタが家にやってくる、町内会館でクリスマス会＆おもちつき大会、サンクス前階段（町内への通路）の除雪などを行っています。

サンブライト真駒内町内会

▶ 昭和62年創立
▶ 世帯数 426戸

1986年（昭和61年）から4年をかけて、国道453線から道道真駒内御料札幌線に入り、約300mの地にニュータウン、サンブライト真駒内は完成しました。

住民の暮らしを優しく包むかのような山や豊かな緑に囲まれた丘陵地帯で、その名のとおり太陽が燐々と輝き降り注ぐ、風光明媚な町です。町内にある公園の一つ、真駒内虹の緑地公園には、札幌市で一番長い滑り台が設置されており、約100段の階段を上った滑り口からはサンブライトの町並みが一望できます。

町内会は1987年（昭和62年）に戸数12戸で発足しました。人と自然の美しい共存と子どもから高齢者まで、安心・快適に暮らせる町づくりを目指し「親睦からの和」を主眼に活動しております。

当町内会は、65歳以上の方が全住民の約18%、世帯数では約14%で、若い世帯・世代が多い町内会ですが、夏祭り、冬祭り、作品展は、寿楽会（老人クラブ）と二人三脚で開催するなど、全世代が一緒になって行事を開催し盛り上げています。また、春の町内一斉清掃と100を超える花壇樹への花植えや秋の町内一斉清掃には子どもから高齢者まで幅広い年代層の方が、毎回200名前後集まり、環境の美化にも取り組んでいます。

若い世帯の多い町内会として、これからも型に拘らず、子どもから高齢者までの全世代の方が、安心・安全にそして楽しく暮らせる美しい町づくりを目指してまいります。

常盤二区町内会

▶ 昭和21年創立
▶ 世帯数 30戸

常盤二区町内会創立経緯とその後の歩みは、芸術の森地区連合会「創立10周年記念誌」（平成17年発行）に記載されているので、そちらを参照していただきたいと思います。

平成17年当時には世帯数34戸とありますが、平成27年現在は町内会正会員30戸、季節在住3戸で、世帯の総数ではありません空家もありません。この10年間で世帯の25%が転出、転入があり、概ね年配・高齢の方々が去り、比較的若い方が新会員となっています。交通、天候など生活に不便な地区ではありますが、一方的に過疎化へと突き進まないのは、町内会をとりまく環境、自然を求めて移り住む人が多いと思われます。

一方、地域状況の変遷は市街化調整区域ということもあるって、人口変化に伴うようなものはありませんでしたが、真駒内スキー場が平成19年に営業終了となり、その跡地に太陽光発電（メガソーラー）を建設中で、平成27年には稼働が予定されています。

住民生活の面では、ここ数年平穡な気候が続いていましたが、平成26年9月には集中豪雨に見舞われ、札幌市南区常盤の地名も全国区となり、当町内会の農業用用水施設も大きな被害を受けました。近年は野生動物による農作物の被害も年々増加しています。

これからも幼き子ども心を育む自然豊かな環境を大切にして、住民の高齢化に向かって互いに協力する地域社会をめざしていきます。

滝野町内会

▶ 明治34年創立
▶ 世帯数 30戸

滝野地区は、1870年代から札幌の開拓に伴う木材需要に応じて開拓されました。

そして、この地に明治12年に厚別川を利用した官営の製材所「厚別山水車機械所」が建設され、その跡地には銅板で製材所全景とその由来を記した記念碑が建立されております。

滝野の豊かな自然を最大限に生かした施設には、国営滝野すずらん丘陵公園があり、平成22年5月に深い森の中で、自然とふれあい森林浴を楽しむことができる「滝野の森」エリアが供用開始され全面開園となり、全面積は395.7haにもなりました。

また更には花と緑に囲まれた日本最大級の霊園、真駒内滝野霊園があります。

その敷地面積は年々拡張され、現在総面積180ha、総区画数70,700区画となり訪れた方々の憩いの場となっております。

農業分野では、平成26年より3名の青年が新規就農し、遊休農地の解消にも大きく貢献しております。

時は刻々と過ぎ、この滝野の地も次の世代へとゆっくり移り変わろうとしております。先人の開拓魂を忘ることなく、今こそこれから滝野を、未来の滝野を「皆で考え、皆で実践」することが大切と考えます。

真駒内三団町内会

▶ 昭和22年創立
▶ 世帯数 14戸

今年は、戦後70年、私達の真駒内三団町内会は、昭和23年頃から戦後の農地開拓団の第三団として入植された人達の地域の名前を、町内会の名称として残したもので

何か古めいた名前のようにですが、私達には、愛着のある誇りの持てる名前なのです。戦後、開拓者として一鋤、一鋤から土を耕した人達の歴史ある名前です。入植された皆さんのご苦労は、それ

は、それは大変なものだったようです。

当時開拓団として20数軒入植されたようですが、年月の流れとともに今はわずか14世帯の小さな町内会です。入植当時からの皆さんも元気にしておられ、今はその子供たち、孫たちと1月は新年会、春には人知るぞ知る、2軒の庭に咲き誇る芝桜を前にしてのお花見会、秋には、昭和29年に設置した天照大神の石碑の三団神社（願いがよく叶う？）で皆さんのが収穫した作物をお供えして、敬老のお祝いを合わせての秋祭り、12月は忘年会で皆さんが集まり、町内会の絆を深めています。

これからも、わずか14世帯の小さな町内会ですが、地域の皆様との絆を大切にしていきたいと思っています。

真駒内二団町内会

▶ 昭和22年創立
▶ 世帯数 8戸

真駒内二団町内は芸術の森地区の東側に位置し、緑豊かな町内です。

昭和22年開拓者として21世帯が入植し、農業に従事してきましたが、火山灰地で傾斜地が多く農業経営が大変困難であると共に、高齢化、後継者不足に陥り離農する世帯が多く、現在8世帯になりました。平均年齢73歳、幼児はじめ小中高生はゼロの限界集落であります。

今後も少子高齢化が進む中、急な人口増は望むことが出来ません。又、この地区は市街化調整区域となっており一層過疎化が進むことが考えられます。町内としても、今後どうすれば良いか考慮中であります。

真駒内駒岡町内会

▶ 昭和22年創立
▶ 世帯数 70戸

満州開拓の人々がこの地に入植して以来開拓に従事、今日の駒岡を創りあげてきました。先人の苦労は、今も住民に語り継がれています。

当時は、道路、自家発電、飲料水の確保等すべて自分たちの手で解決してきました。

昭和36年商用電力の導入、昭和59年駒岡清掃工場の建設を契機として、市上水道が導入され住民の快適な文化生活が保障されました。また、清掃工場と同時に開所した市の保養施設「保養センター駒岡」は、市内外からの顧客で賑わっています。このようになるまでには、町内会員の努力と協力を忘れてはならないと思います。当地にある駒岡小学校は、昭和52年に特認校の指定を受け、たくさんの児童が通学しています。

平成23年に町内会は法人格（地縁団体）を得て、それまで「財団法人駒岡福祉センター」で所有管理していた集会所及び土地の無償譲渡を受けて、町内会の日常活動に寄与しています。

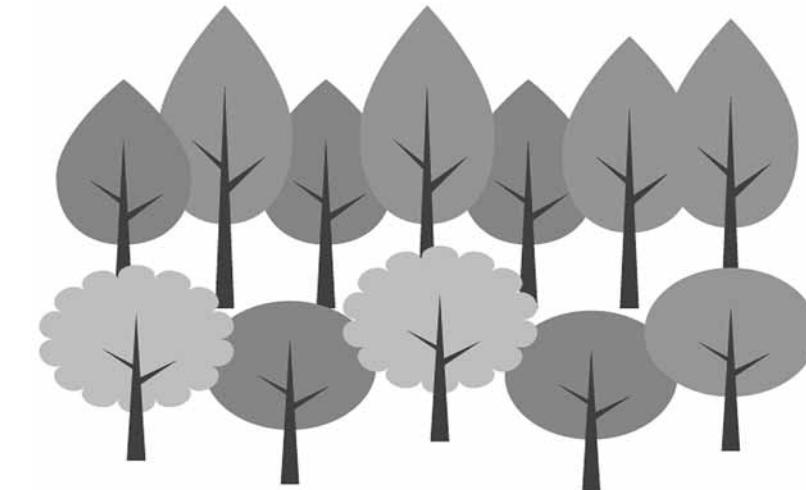
駒岡団地町内会

▶ 昭和42年創立
▶ 世帯数 106戸

緑豊かな自然に包まれた、高台に位置する住宅地「駒岡団地」。通勤や通学、日常生活に埋もれてしまいそうな身をリフレッシュしてくれる、そんな安らぎのある団地と言われています。しかし50年前、この団地が出来たばかりの頃はまだ電灯もなく、水道のことや道路整備のことなど、多くの問題がありました。先人の並々ならぬ苦労と努力の積み重ねがあって、現在の住みやすさがあります。

駒岡団地町内会の歴史上のよきパートナーは、隣接する駒岡町内会で、開校66年の歴史を有する駒岡小学校の地域ぐるみの行事をはじめ、盆踊り、祠を守る事等、協力し合って行われています。

このような関係を大切に守りながら、今後もより一層、福祉の向上、地域の発展に寄与する事を目指して、強い連帯感をもって、活動が続けられる事を願っています。

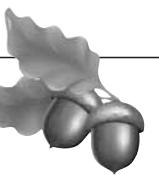




芸術の森地区の沿革

年	事柄	年	事柄	年	事柄	年	事柄
1869(明2)年	札幌郡が誕生し開拓使庁銭函仮役所の管轄となる	1902(明35)年	豊平村と改称、初代村長に舟橋八五郎 石山郵便受取所開設 厚別器械場教育所(旧滝野小学校の前身) 開設 器械場に15戸入植	1928(昭3)年	豊平町土場区が発足	1951(昭26)年	柴原商店、常盤に出店 アシリベツの滝を利用した発電開始
1871(明4)年	5月開拓使庁札幌に開設その管轄下に入る 10月本願寺道路開通(伊達市長和(起点の碑) ～中山峠～定山渓～石山(陸橋付近)～ 平岸天神山(終点の碑)距離103km	1903(明36)年	常盤1号橋より常盤2号橋(現常盤新橋) まで細い道開通	1929(昭4)年	10月定山渓鉄道電化される 札幌・定山渓間にバスが運行される	1954(昭29)年	4月1日常盤中学校開校(石山中学校から独立、常盤小学校と併置)
1872(明5)年	開拓使が穴の沢に茅小屋5戸建設	1904(明37)年	石山四区(現石山東4丁目)に招魂碑と天照皇大神碑を建立	1932(昭7)年	この年水害凶作	1955(昭30)年	滝野方面米軍の演習場となり開拓団50余戸撤去
1873(明6)年	穴の沢で建築用石材(軟石)を発見	1905(明38)年	石山四区(現石山東)で水田開始	1938(昭13)年	札幌駅より定山渓・豊平峡間バス運行開始 6月15日軟石運搬の中出し場に豊平青年団石山分団の有志により望豊台の碑建立(現石山高架橋の中央部付近)	1956(昭31)年	台風15号により滝野地区国有林全滅の状態となる
1874(明7)年	採掘を開始 豊平村設置	1907(明40)年	土場(現常盤)で中川千吉、初めて柾葺土台付家屋建築、水稻栽培開始 西本願寺石山説教所開設(大正6年、善住寺と改称)	1942(昭17)年	11月瑞現寺が現在地に移転	1960(昭35)年	アシリベツ川を利用した紅鱈養殖開始
1876(明9)年	札幌郡役所の管轄となり豊平小区となる 石山～山鼻間に馬車道開通 真駒内に官営種畜場を設置	1908(明41)年	6月豊平町と改称、初代町長に大川政徵	1944(昭19)年	石山・常盤・真駒内・滝野に字名改称	1961(昭36)年	9月14日、30年に火災で焼失した川沿の北海道立もなみ学園が現在地へ移転開園
1878(明11)年	ケプロン(開拓使顧問)の企画により、米国より製材機械を取り寄せる	1909(明42)年	石山坂より札幌まで馬車鉄道及び常盤神社下より石山坂までトロッコ敷設、石材運送 7月28日器械場神社を滝野に創建	1945(昭20)年	東京から常盤台に20戸入植(東京農兵隊) 官公庁退職者10数戸石山開拓団として八区に入植	1962(昭37)年	滝野、空沼二股まで中央バスが延長
1879(明12)年	滝野に官営の製材工場(厚別山水車器械場)を開設、以後器械場と称する(明治23年閉鎖) 八戸より梅の木を持ち込み石山四区(現石山東)で接ぎ木し栽培	1910(明43)年	柴原商店、器械場を開店(当地第1号) 土場特別教育所(現常盤小学校の前身) 開設 石山神社を現在地へ移転	1946(昭21)年	当時の部落会、石山第一・石山第二・石山第三・石山第四・石山第五・石山第六・石山第七、戦後それぞれ町内会と名称変更 常盤台町内会創立	1963(昭38)年	5月1日豊平町が札幌市に合併、札幌市となる
1880(明13)年	3月札幌区役所開設、その直轄となる	1911(明44)年	10月29日平岸連絡線(俗称・アンパン道路)が軍隊の助力により完成(終点は現在の石山高架橋) 丸沢木工場、器械場で事業開始(大正2年頃廃業)	1947(昭22)年	札幌復員部隊、石山八区に入植(21戸) 石山八区町内会創立 土場部落会を常盤一区町内会と改称 器械場部落会を滝野町内会と改称 常盤二区町内会創立(常盤町内会を一区と二区に分割)	1964(昭39)年	9月真駒内川氾濫
1884(明17)年	凶作(いなごによる被害甚大)	1912(明45)年	常盤に新校舎(20坪)新築、5年生以上は石山小学校へ	1948(昭23)年	満州開拓団引き上げ者、唐木田真以下13戸、真駒内一団に入植 土場小学校を常盤小学校と改称(石山中学校分校を併置) 満州樺太等海外引揚者、滝野に入植(47戸)	1967(昭42)年	4月北海道立もなみ学園内に北海道札幌養護学校分教室開設
1885(明18)年	石山神社(山の神)創建、10月5日第1回祭礼	1913(大2)年	7月滝野に開拓記念碑建立	1949(昭24)年	米軍が真駒内種畜場を接收しキャンプクロフォードを建設、月寒より移駐する 真駒内一団町内会(現真駒内駒岡町内会)創立 真駒内三団町内会創立 真駒内二団町内会創立	1968(昭43)年	1月17日老人クラブ常盤明常会発足
1886(明19)年	地区名を穴の沢を石山に呼称 穴の沢から定山渓に馬車道開通	1914(大3)年	本妙法華宗石山教会創立(現在の日勝寺) 天理教越道分教会設立	1950(昭25)年	10月31日定山渓鉄道電車部門を廃業する	1969(昭44)年	10月31日定山渓鉄道電車部門を廃業する
1890(明23)年	滝野製材工場閉鎖	1916(大5)年	公立土場尋常小学校(現常盤小学校)開校(石山小学校土場特別教育所から独立)	1970(昭45)年	道道札幌支笏湖線開通	1971(昭46)年	1月17日道道札幌支笏湖線改良工事促進期成会発足、会長宮田興太郎(見晴町内会長)
1891(明24)年	石山一区山の手に茅小屋を設け教育を開始	1917(大6)年	公立器械場尋常小学校(旧滝野小学校)として独立	1972(昭47)年	1月20日石山地区町内会連合会創立		2月1日石山地区町内会連合会創立
1894(明27)年	豊平村に消防組を組織	1918(大7)年	9月豊平町青年団発足 10月定山渓鉄道開通、石切山駅設置(現振興会館)	1973(昭48)年	3月1日石山地区町内会連合会創立		3月1日石山地区町内会連合会創立
1896(明29)年	簡易教習所を設ける	1922(大11)年	3月1日石山巡査駐在所設置(石山・土場・穴の沢を管轄)				
1899(明32)年	苗穂刑務所分監が土場に開設される 9月1日石山尋常小学校設立認可	1925(大14)年	4月豊平町初の女子青年団(処女会)発足				
1900(明33)年	苗穂刑務所分監監形に移管 滝野で阿部仁太郎木炭生産 滝野製材工場再開 滝野に15戸入植	1926(大15)年	石山小学校に高等科が併置される				
1901(明34)年	中川千吉、土場に入植 滝野に10戸入植、農業と製材に従事 東本願寺が石山説教所(大正元年、妙現寺と改称)を開設 土場部落会(現常盤一区町内会)創立 器械場部落会(現滝野町内会)創立						

年	事柄	年	事柄	年	事柄	年	事柄
1974(昭49)年	常盤体育振興会発足 南郵便局開設	1991(平3)年	札幌市立高等専門学校開校 見晴町内会創立20周年記念誌発行 第1回国際教育音楽祭（PMF）開催 (芸術の森) ときわみなみ幼稚園開設	1996(平8)年	芸術の森地区ふれあい音楽祭(現音楽祭) 開催 アートパークタウン町内会館落成 芸術の森少年野球場およびスポーツ広場 サッカー場完成 石山緑地完成 少女ソフトボールチーム「石山リンクス」 全国大会出場 12月老人クラブアートパークタウンなな かまど会発足	2004(平16)年	芸術の森地区連絡所を芸術の森地区まち づくりセンターに改称 芸術の森地区ホームページを開設 「広報やませみ」「ばんけいぬま」「森の こえ」を統合し「広報芸術の森」に改称 芸術の森地区文化マップ（景観編）作成 常盤小学校区、石山東小学校区、駒岡小 学校区で「子どもを見守る会」、「子ども 110番」発足 台風18号（瞬間最大風速50.2km/h）によ る倒木、長時間停電
1975(昭50)年	常盤団地町内会創立（常盤一区町内会か ら分立）中央公園に集会所開設	1992(平4)年	4月常盤児童会館開設 7月26日老人クラブサンブライト寿楽会 発足 常盤一区会館落成	1997(平9)年	芸術の森地区まちづくり推進会議発足・ 同ビジョン策定 小学校区スクールゾーン実行委員会発足	2005(平17)年	芸術の森地区町内会連合会創立10周年記 念式典挙行、記念誌発行 芸術の森地区文化マップ（地域活動編） 作成 芸術の森地区の木（ミズナラ）、鳥（ヤマ セミ）、花（ミズバショウ）制定 4月もりの仲間の「子育てサロン」始まる 6月26日もりの仲間の「こまおか朝市」 始まる 7月関口雄揮美術館開設 8月国際交流事業実施（米国ポートラン ド市）
1977(昭52)年	1月10日老人クラブ駒岡寿会発足 いしやま中央幼稚園開設	1993(平5)年	石山緑地開園 支笏湖線、国道453号線に昇格 石山四区見晴町内会から見晴町内会へ改 称	1998(平10)年	芸術の森地区社協広報誌「ばんけいぬま」 発行 芸術の森地区社協「福祉のまち推進セン ター」発足 駒岡資源選別センター完成 アシリベツ水車器械所跡記念碑完成	2006(平18)年	10月ママさんバレー「なづな」第 17回全国家庭婦人いそじ大会で銀メダル 真駒内川河川改修工事第一期終了 3月札幌市立高等専門学校閉校 4月札幌市立大学開学 4月北海道社会福祉事業団もなみ学園開 園 5月芸術の森地区社協「もりの仲間のさ わやかクラブ」立ち上げ 芸術の森地区連合町内会とカッコウの里 を語る会による「不法投棄回収活動」始 まる 芸術の森地区「新」町づくりビジョン策 定
1978(昭53)年	7月15日老人クラブ石山明正会発足	1994(平6)年	ママさんバレー「石山東チーム」 全道大会で優勝	1999(平11)年	アートパークタウン町内会創立10周年記 念誌発行 真駒内緑地（常盤団地）にパークゴルフ 練習場開設		
1979(昭54)年	見晴町内会館落成 1月21日老人クラブ見晴寿会発足 常盤団地集会所、現在地へ移転 北海道札幌養護学校分教室が、北海道札 幌養護学校もなみ学園分校として開校	1995(平7)年	芸術の森地区町内会連合会創立（石山地 区町内会連合会から分立） 初代会長 佐々木佐一 芸術の森地区会館落成 芸術の森地区連絡所開設 芸術の森地区社会福祉協議会創立、 初代会長 櫛引清和 芸術の森地区民生児童委員協議会創立、 初代会長 櫛引清和 芸術の森地区青少年育成委員会発足、 初代会長 安藤晃 芸術の森地区ソフトボール大会開催 芸術の森地区大運動会開催 芸術の森地区文化祭開催 広報「やませみ」発行 青少年育成委員会広報誌「森のこえ」発 行	2000(平12)年	真駒内川を考える会発足		
1981(昭56)年	8月真駒内川洪水、もなみ学園橋上流で 溢水	1996(平8)年	アートパークタウン町内会創立30周年記 念誌発行 9月「マイタウントーク芸術の森」開催	2001(平13)年	常盤開基100年記念式典挙行 記念碑（大地の恵みと共に）、常盤神社に 完成 石山東町内会創立30周年記念誌発行		
1982(昭57)年	10月25日住居表示変更（石山東、常盤） 真駒内滝野靈園開園	1997(平9)年	石山東4丁目の招魂碑と天照皇大神碑を 石山神社境内へ遷座 駒岡団地町内会記念誌「世紀を超えて」 を発行 常盤開基百年記念誌「常盤二百年への出 発」を発行	2002(平14)年	常盤中学校区青少年健全育成推進委員会 発足 2003(平15)年 芸術の森地区文化マップ（人物編）作成 札幌市立高等専門学校の市立大学化決定		
1983(昭58)年	7月30日国営滝野すずらん丘陵公園開園 10月29日札幌支笏湖線沿線町内会協議会 発足、会長 間地正雄（石山四区上町内 会長）	1998(平10)年	常盤開基百年記念誌「常盤二百年への出 発」を発行				
1985(昭60)年	3月27日常盤中学校独立校舎落成、開校 式 11月30日駒岡清掃工場操業開始	1999(平11)年	常盤中学校区青少年健全育成推進委員会 発足 2003(平15)年 芸術の森地区文化マップ（人物編）作成 札幌市立高等専門学校の市立大学化決定				
1986(昭61)年	石山東小学校校開校（校舎新築落成） 7月26日札幌芸術の森一部開園 11月3日石山高架橋供用開始 11月22日石山東1丁目に望豊台の碑移転 建立除幕式 12月6日石山会館改築落成 常盤団地町内会館新築落成	2000(平12)年	常盤開基100年記念式典挙行 記念碑（大地の恵みと共に）、常盤神社に 完成 石山東町内会創立30周年記念誌発行	2001(平13)年	常盤開基100年記念式典挙行 記念碑（大地の恵みと共に）、常盤神社に 完成 石山東町内会創立30周年記念誌発行		
1987(昭62)年	6月20日老人クラブ常盤団地常生会発足 芸術の森地区少年消防クラブ発足 真駒内川河川改修促進期成会発足、会長 佐々木佐一（石山四区見晴町内会会長） 7月サンブライト真駒内町内会創立 10月石山東平和会館落成	2002(平14)年	9月「マイタウントーク芸術の森」開催 石山東4丁目の招魂碑と天照皇大神碑を 石山神社境内へ遷座 駒岡団地町内会記念誌「世紀を超えて」 を発行 常盤開基百年記念誌「常盤二百年への出 発」を発行	2003(平15)年	常盤中学校区青少年健全育成推進委員会 発足 芸術の森地区文化マップ（人物編）作成 札幌市立高等専門学校の市立大学化決定		
1988(昭63)年	10月8日石山緑地造成工事着工、鍬入れ 式挙行 石山緑地保全管理協力会発足、 会長 東正治	2004(平16)年	芸術の森地区連絡所を芸術の森地区まち づくりセンターに改称 芸術の森地区ホームページを開設 「広報やませみ」「ばんけいぬま」「森の こえ」を統合し「広報芸術の森」に改称 芸術の森地区文化マップ（景観編）作成 常盤小学校区、石山東小学校区、駒岡小 学校区で「子どもを見守る会」、「子ども 110番」発足 台風18号（瞬間最大風速50.2km/h）によ る倒木、長時間停電				
1989(平元)年	アートパークタウン町内会創立						
1990(平2)年	石山四区上町内会から石山東町内会へ改称 サンブライト会館落成						



芸術の森地区発展小史

年	事柄	年	事柄
2007(平19)年	1月芸術の森地区「雪あかりの祭典」(スノーフェスティバル)開催 サンブライト真駒内町内会創立20周年記念誌発行 老人クラブ常盤明常会40年記念誌発行	2013(平25)年	保養センター駒岡の「存続」決定 芸術の森地区安心安全マップ作成 3月石山・芸術の森地域の小学校の「学校規模適正化」の検討始まる 7月~11月芸術の森地区会館の改修工事 8月30日南区防災訓練をときわコミュニティ広場で実施 11月30日芸術の森地区連合会簡易生命保険払込団体を解散
2008(平20)年	5月芸術の森地区不法投棄ボランティア監視員組織立ち上げ	2014(平26)年	6月駒岡清掃工場更新(建て替え)に関する説明会開催(平成36年稼働開始予定) 8月札幌藝術の森で札幌国際芸術祭2014同時開催事業「トリエンナーレにふれるアートな夏休み」を開催 9月11日午前3時10分、大雨特別警報の発表に伴う避難勧告命令発令(避難者112名)
2009(平21)年	7月家庭ごみの有料化 10月石山東小学校区で大規模防災訓練実施	2015(平27)年	アシリベツ川氾濫により道道真駒内御料札幌線通行止め、午後5時12分避難勧告命令解除 芸術の森地区連合会創立20周年記念事業検討委員会発足 アートパークタウン町内会館新築、移転 ヤマメ放流会、平成26年9月の大雨被害の影響で中止 老人クラブ常盤団地常生会、常盤未来に改称 6月保養センター駒岡改修工事のため休業(平成28年4月再開予定)
2010(平22)年	1月4日芸術の森地区まちづくりセンター自主運営開始 4月中央バス札幌支笏湖線廃止 6月「札幌版事業仕分け」で、保養センター駒岡を「廃止」と判定 7月札幌市へ保養センター駒岡存続要望の署名を提出(署名、9,057名) 森の朝市(フォレスト・マルシェ)始まる	2016(平28)年	7月土砂災害・全国統一防災訓練を石山東小学校で実施 常盤小学校開校100周年記念式典挙行 1月芸術の森地区連合会創立20周年記念式典挙行 記念誌発行
2011(平23)年	見晴町内会創立40周年記念誌発行 3月31日芸術の森地区街づくり推進会議解散 4月1日芸術の森町内会連合会を「芸術の森地区連合会」に改称 7月芸術の森地区連合会シンボルマーク制定 シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート登録 11月常盤台町内会解散、常盤一区町内会へ編入		
2012(平24)年	5月芸術の森地区ヤマメ放流会開催(北海道山女魚を守る会共催) 6月~9月国道453号線(真駒内柏丘から常盤新橋)の舗装道路全面補修工事 11月芸術の森地区文化祭の会場を芸術の森工芸館へ 老人クラブサンブライト寿楽会創立20周年記念誌発行		

略史

昭和58年(1983年)の国立滝野すずらん丘陵公園の開園、昭和61年(1986年)の札幌芸術の森の開園とその後の整備充実及び平成3年4月(1991年)の札幌市立高等専門学校の開校は、この地区を大きく発展させました。

更に、周辺の丘陵と、滝野及び真駒内川周辺の大自然は、札幌市内随一の豊かさを誇っています。

従って、この地域は「芸術の森地区」の名に最もふさわしい所であります。

私たち住民が誇りにするこの地区的歴史を、3期に区分して、その概略と主な産業の略史をお伝えします。

第1期 石材と木材による基礎作り

この地域は明治7年(1874年)に石山で開始した建築用石材(札幌軟石)の採掘開始と明治12年(1879年)滝野の水車式動力による製材工場(厚別川水車器械所)の運転開始、及び真駒内川上流(常盤二区やその奥地の御料林)の造材(木材の伐採搬出)によって本格的な開拓が開始されました。

◆石山東(石山四区)に入植

初期の石材採掘は、夏場が中心だったので、定住する石工職人は少なく、単身で来道し冬期には、転地したり離道する人が多く、この地区では明治12年(1879年)頃から農作地開墾のために入植はしていたものの、四区(現在の石山東)に本格的に人々が定住を始めたのは、明治30年(1897年)からで、この年に青森県出身の欠端三平氏他数人の人達が定住生活を始めました。

明治37年(1904年)には、石山四区(現東4丁目)に札幌軟石の台座3段の上に、高さ約3mの空に向かって掌を広げた様な自然石を乗せた招魂碑(日露戦争勝利祈願と日清戦争戦没者慰靈を兼ねる)と、その右手に天照皇太神碑が石山神社の屯宮として、又地域住民の精神的よりどころとして建立されました。

碑石は金子伝次郎氏の馬を利用し、西野氏旧宅前の真駒内川(札幌市立高等専門学校前の「みづ

ならばし」の下)より25名の人々の協力で運ばれました。

●協力者氏名

宮嶋慶顕、金子伝次郎、対馬金作、八嶋惣一、江塚初太郎、堂本駒吉、水嶋竹松、和田多之吉、中河原兼松、高橋由太郎、沢田林作、佐藤留吉、長瀬佐十郎、欠端三平、早坂石藏、斎藤豊吉、山口又蔵、吉田実栄、村上外吉、早坂久作、金子義美、金沢藤作、対馬直次郎、川本壹次郎、欠端宅七(石工は、西野常吉氏?)

招魂碑は、100年余の風雪を経ても、破損や損傷もなく、建立には多額の経費と多くの労力を要したものと思われ、この頃既に、この地区には相当数の定住者がいたものと推定されます。

なお、招魂碑(および天照皇太神碑)は、諸般の事情により平成14年6月に石山神社境内にせん座され、同所に鎮座しています。

◆常盤(土場)に入植

常盤地区(昭和19年までは土場)は、明治32年常盤橋の近くに開設された苗穂刑務所分監が翌年月形に移転した後その用地約50町歩が民間に払い下げられたことにより、明治34年に石川県出身の中川千吉氏が、郷里から親類・知人を招いて開拓の鍬を下ろしたことが開基となります。中川氏は常盤で初めて柵葺き土台付きの家屋を建築(明治44年)しました。

厳しい自然の中で開拓を進めた先人達の困難は、筆舌に尽くし難いものがあったと推察されます。しかし、この苦難を乗り越えるために培われた、地域の連帯(温かな人情)と不屈の精神(助け合いの精神)は、百年後の現在まで確実に受け継がれ、未来を担う子供たちが、質の高い教育を受ける環境を整えることに發揮されてきました。

開拓当初、子供たちは片道約8kmのささやぶ道を石山小学校まで徒歩で通っていました。設立・運営に必要な費用のほとんど全てを負担しても、「この地に学校を造りたい。」という地域の熱意と努力によって明治43年、『土場特別教育所』が開

設されました。以来、学校は地域の誇りであり精神的寄附でした。

木材は真駒内川を利用して流送し土場に集積して、石材と共に馬車で札幌に送られました。これらの木材や石材は、札幌の諸官庁の建物や倉庫の建築に利用され、特に石材は防寒と防火の為に開拓使がその利用を奨励したことによって盛んに採掘されました。

苗穂刑務所分監は1900年(明治33年)月形に移転し廃止され、その用地約50町歩が民間に払い下げられ獄舎や官舎が開拓に利用されました。

常盤二区(御料地～土場と呼ばれていた)に最初に入植したのは、堂本駒吉氏(明治38年頃)で、1か年1町歩の割りで、自力開墾し、3分の1は無償で3分の2は買い取る方式で開拓が進められました。

◆滝野(器械所)の繁栄

一方、滝野では、1879年(明治12年)に厚別山水車器械所(器械はアメリカより輸入)が開設され、近接の山林より伐採した原木を製材して、尾根伝い(この道は現在も残っています)に澄川から平岸に抜け札幌に運び込まれました。官公舎・豊平館・住宅の建設に使われ、札幌の基礎作りに大きな役割を果たしました。水車器械所は官営の工場でしたので、大勢の人が住み着き、行商人が出入りし、芝居小屋も建てられ毎日上演されたほどでした。水車器械所は、1890年(明治23年)頃閉鎖されました。

その後、滝野は無人の地となり、1899年(明治32年)に豊平村の阿部仁太郎氏が払い下げを受け、1,069,533m³(32万4千101坪)その他に阿部国松氏他15戸が小作人として入植しました。製材所も再開され、資源の豊富な器械場では、冬山造材、炭焼き、根曲竹、薪の切り出しに力がそがれました。

現在の芸術の森地区は、日清戦争後の1897年(明治30年)頃から北辺を守る国策に合わせて入植者が増え、農業、石材、造材、製材を中心とした産業が確立されて、太平洋戦争まで開拓が続きました。

第2期 戦後の入植

第2次世界大戦は、この地域にも大きな影響を与えました。

1945年(昭和20年)8月の終戦と共に、経済の混乱や食糧難を避けた人々や、海外からの引揚者がこの地域に入植してきました。

1945年(昭和20年)以降、官庁の退職者と樺太引揚者が石山八区に、満州引揚者が真駒内一団に、東京からの移住者が常盤にそれぞれ入植し、古くから開けた石山四区(石山東)、土場(常盤)、器械所(滝野)を取り囲んで、石山八区、常盤台、真駒内一団、真駒内二団、真駒内三団の農業開発が行われました。

特に、1946年(昭和21年)に常盤に入植した開拓団は、1945年(昭和20年)に石山に入植した、東京都出身者による拓北農兵隊40戸の内の20戸により結成された常盤東京開拓団で、常盤(現在の常盤台)に入植しましたが、慣れない北国の寒さと火山灰との戦いに大変な苦労をして大半が離農しました。

常盤二区には、地元出身者による町有林開拓団11戸が入植し、その後、空沼二股、小滝の沢、空沼登山口にも数戸が入植しましたが離農しています。

1947年(昭和22年)から1950年(昭和25年)にわたって、旧農業試験場の牧草地(戦後米軍が接収)を作農創設法に基づいて、1戸当たり山林10町歩前後の払い下げを受けた約85戸の開拓者が真駒内に入植し、真駒内一団、同二団、同三団に分かれて開拓の鍬を振り、後に真駒内一団は真駒内駒岡に改名しました。

終戦後の産業はコンクリートの普及により石材の需要が減少し、木材も終戦直後の乱伐や、1954年(昭和29年)の台風15号(洞爺丸台風)の被害で資源が枯渇して衰退し、この地域は水稻と野菜を中心とする農業中心地に変身しました。

第3期 冬季オリンピックによる繁栄

1972年(昭和47年)冬季オリンピック大会によって真駒内は激変しました。南北線の北24条から真駒内までの約12キロメートルに地下鉄が敷かれ、真駒内オリンピック会場の玄関口になりました。

真駒内には、屋内スケート競技場、屋外スケート競技場、バイアスロン競技場が設けられ、恵庭岳には滑降コースが造られ、各競技場を行き来するための幹線道路も整備されることとなり、道道札幌支笏湖線の拡幅工事が行われました。18メートルから20メートルに拡幅、全線が完全舗装されました。

その後は支笏湖、千歳、苦小牧、洞爺湖方面の行楽地へのバイパス路となり、これにより、石山東・常盤地区ばかりではなく、駒岡、滝野地区を含めて地域に変化をきました。

札幌市の人口増加も加わって、常盤団地、アーバンパークタウン、サンブライド真駒内、駒岡団地が開発され、石山東や常盤の宅地化も進み、人口の増加が続きました。

これに加えて、国営滝野すずらん丘陵公園と札幌芸術の森、引き続き札幌市立高等専門学校(現札幌市立大学)がオープンしました。

さらに2005年(平成17年)には、関口雄揮記念美術館が開設されて、この地域に新しい息吹を与え、当地区は芸術文化の国際的な活動の場に変わりました。

畑作から

農業

札幌軟石の採掘が開始された頃の住民は、季節労働の採掘職人が中心で、作業の片手間に菜園を手掛ける程度でした。従って当地区に農業として入植を始めたのは1879年(明治12年)頃で、軟石採掘を生業としていた人々であったと推測されます。

青森県八戸から接ぎ木の名人欠端三平氏が来道して、石山東の陸橋付近で梅の接ぎ木に成功したのもこの頃と伝えられていますので、この頃のこの付近は、菜園や簡単な果樹栽培が行われていたものと思われます。

明治30年代に入ると、石山東の陸橋寄りから常盤にかけて約30町歩の平安農場と呼ばれた土地があり、その後開拓され、後、この土地は宮島農場を経て、高谷久治氏に移り高谷農場と呼ばれています。この土地に、接ぎ木の名人欠端三平、金子伝次郎、佐藤富吉、八島惣一、和田多之吉等の

各氏が入植したと伝えられています。明治37年に招魂碑が建立されたことを考えますと、定住したのは明治30年代の前半と推測されます。

当時の農作物は、大小豆、麦、粟、稗、キビ、とうもろこし、蕎麦、大根等が中心でした。

稻作へ

稻作は、1873年(明治6年)に恵庭の島松川の水を利用して中山久蔵氏が成功し、1878年(明治11年)には美園の星川喜助氏が月寒坂の下で8反歩の水田を開き1反歩約3俵を収穫したと記録されています。

石山東地区での水稻栽培は、1905年(明治38年)に金子伝次郎氏と上田長松、上田岩松の両氏が石山東で試作しましたが、収穫には至らず、栽培の成功は、1907年(明治40年)の後藤利助氏入植の前後と思われます。

常盤では、中川千吉氏が1907年(明治40年)に水田2反歩を開田し米を収穫しています。

大正時代の中頃からは、灌漑用水の掘削が開始され稻作が軌道に乗り、石山東、常盤・滝野一帯は黄金の波打つ地域に発展しましたが、畑作等への転作あるいは1970年(昭和45年)道道支笏湖線開通と前後して急速に宅地化が進み、現在は、その影を見ることができません。

酪農も

明治の末から昭和20年代の中頃迄稻作と畑作を中心として展開してきた農業は、昭和20年代から酪農を兼業する農家が増えました。

酪農は、昭和40年(1965年)代に入ってから急速に減少し昭和50年(1975年)代に入ると、常盤では、西野宏氏1軒のみを残すだけとなりました。

残された西野氏の酪農場も昭和59年(1984年)に札幌市立高等専門学校の用地に買収され終焉しました。

そして野菜

昭和40年(1965年)代から酪農に取って代わったのが野菜の栽培です。

現在、常盤地区野菜の中心は、ホーリン草と小松菜(真駒内三団、山田令二氏の指導を受ける)、

滝野地区では、ハウス栽培のホーレン草、種子用メークインが中心に栽培されています。

地域が、札幌のベットタウンとしての色彩を強め、団地が造成されて、農地は減少の一途をたどっていますので近年は極端に集約されたハウス栽培に転換されています。

石材と碎石業

札幌軟石
札幌軟石は、明治7年(1874年)開拓使顧問ケプロンに同行したワーフィルドとアンチセルによって発見され、明治8年(1875年)から本格的に採掘されました。

岩質は凝灰岩で、支笏湖の大噴火の際に流れ出た溶岩が固まってできた支笏湖噴火溶結凝灰岩ですから硬石とは異なり採掘や加工が比較的容易でした。

明治8年(1875年)の産出量は、1,984.5切で6年後の明治14年(1881年)には、57,337.5切と飛躍的に増加しています。

昭和10年(1935年)ころが最盛期で、昭和9年度(1934年)には、196,377切の生産を上げ、約300人の石切職人が活躍し賑いを見せています。

石材は、洋風建築や倉庫(特に農業倉庫)の建築用材、煙突の断熱用材、護岸用材、石碑、墓石、石灯籠、挽き臼等幅広く利用されました。

特に開拓使の奨励もあって札幌軟石は札幌高等裁判所(現札幌資料館)や余市ニッカウヰスキー工場等の建築物などいろいろな所で広く活用されました。

石材の採掘跡は、現在の藻南公園付近、石山緑地、石山八区釣り堀付近、常盤2号橋(現在の常盤新橋)の近く、常盤神社付近(現在も採掘中)、及び常盤1号橋上流の真駒内川左岸に残されています。

軟石の採石には多くの業者が従事し紆余曲折がありました。大正3年(1914年)に岩本石材店が創業し、大正8年(1919年)には、岩本氏が藻南で岩本石材部を創立しています。

大正11年(1922年)には、森正男、中川留吉、塚田環、中原栄太郎、新井季吉、野口岩松、の各

氏と石山信用販売購買利用組合が軟石の採掘販売に当たり、石材切り出し調書によると11,060個33,918円と記録されていますし、昭和8年(1933年)には、共同販売所を設立107,398個13,962円の取扱いをしています。

また昭和18年(1943年)には、札幌軟石株式会社が設立され、6,500個45,500円の取扱いと記録されています。

石山開基百年の昭和50年(1975年)には、株式会社岩本石庭、辻石材工業株式会社、荒井石材店、杉本石材店、生水石材店、兵庫石材店、が操業していました。

このうち現在も軟石の採掘販売を継続しているのは、辻石材工業株式会社と生水石材店のみで、常盤神社の近くで採掘を続けています。

常盤での採掘が始まったのは明治30年(1897年)代頃と思われます。苗穂刑務所分監が開設された明治32年(1899年)に囚人が石材の運送に従事していること、及び石山東に数名の定住者がいたことなどから、明治30年(1897年)代の初期と推定されます。

常盤で採掘された石材は、馬の背に乗せて石山坂に集積し、ここから馬車で札幌に運ばれました。

明治42年(1909年)に馬車鉄道(馬鉄と呼ばれた)が石山坂より山鼻まで開通し、これに合わせてトロッコ路が常盤神社より石山坂まで敷設され、石材はこれをを利用して札幌に運ばれました。

このトロッコ路に使われた枕木が東正治氏宅に、レールが中川利光氏宅に夫々保存されています。

常盤の採掘場で操業したのは、中川石材店、岩本石材店、辻石材工業株式会社、生水石材店、の4社でした。

中川石材店は、中川由吉氏が明治32年(1899年)に27才で土場(現在の常盤)に入植し明治40年(1907年)頃より軟石の採掘と販売を開始し、同氏の死亡後も操業を続けましたが、昭和39年(1964年)頃に閉業しました。最盛期には、地元の石職人が10人以上も働いていました。

岩本石材店(現在の岩本石庭)は、昭和10年(1935年)から常盤新橋付近と常盤神社付近で採掘して、販売をしていました。20人から30人の石職人が働いていましたが、昭和25年(1950年)に閉鎖しました。

辻石材工業株式会社は昭和38年(1963年)に常盤採石場での採石を開始し、生水石材店は、昭和51年5月頃常盤採石場に進出し、共に現在は、門、塀、庭園石、ビル等の外壁建材の生産を中心に創業しています。

往時には、常盤の農家が副業に、真駒内川の岸で軟石の採掘を行っていましたが河川の汚染防止と護岸のために禁止され、その採掘跡が所々に残されています。

札幌軟石の歴史は、この地域の歴史を代表する大切なものでありその遺産は、大切に保存し後世に残さなくてはなりません。

札幌市では、その価値を認め昭和63年(1988年)に石山緑地造成の基本計画を策定し、動的な運動、遊戯施設を昭和63年(1988年)から平成4年(1992年)の4年間で北ブロックに完成し、南ブロックは、特異な景観を持つ石切り場跡地なので、芸術性を持たせた、静的利用を目的に整備を進め、平成8年(1996年)には、石山緑地全体が完成しています。

日鉄鉱業株式会社北海道支店常盤碎石所は、昭和38年(1963年)に開発に着手し、昭和39年(1964年)10月より碎石の生産を開始しています。

昭和55年(1980年)から昭和57年(1982年)にかけて設備の増強がなされ、平成4年(1992年)には、プラントの無人化がなされ、更に平成6年(1994年)には集塵機が増強されて、札幌地区でも、生産量、規模共に最大手の碎石所に躍進しました。

今後は、庭園用石、護岸用石、砕砂、等の新規事業が検討されています。

商業

滝野地区で、商店が営業を開始したのは、明治43年(1910年)に滝野で開業した柴原商店が第1号です。柴原商店は、豆腐の製造と日用雑貨を取り扱っていましたので、この地区の人々は、日用品の確保に不自由はなかったと伝えられています。

石山方面では、明治20年(1887年)代から明治30年(1897年)代まで川本商店と後藤商店が営業を続け、明治40年(1907年)頃には岩本商店、古郡商店、西村商店など、大正10年(1921年)ころには、古郡、岩本、西村、大閑、田中、中島、石田、松村の各商店が営業していましたので、石山東や常盤の人々は、これを利用していたものと思われます。

石山一区で商店(精米業兼)を開き、現在の石山東地区・常盤地区周辺を対象に商いをして歩いていたという古郡商店が、石山四区(現在の見晴)に移転したのは昭和47年(1972年)といわれています。

常盤で商店が営業を開始したのは、昭和26年(1951年)9月に開業した柴原商店が初めてです。以来、滝野と常盤の人々は、この両柴原商店を利用しました。

現在では、コンビニ系商店及び喫茶、食堂も数多く建ち、皆のいこいの場となっております。



水産 養殖

常盤、滝野地区は、地下水や湧水が豊富なことから、養殖漁業が早くから行われていました。

常磐一区で

1931年(昭和6年)常磐一区で吉野氏が虹鱒を養殖し販売しましたが、第2次大戦の勃発で中止しました。戦後再開しましたが昭和40年に閉鎖しました。1972年(昭和47年)に、青山園が常磐神社の近くで鯉の釣り堀を開業し現在に至っています。

滝野でも

滝野では、1948年(昭和23年)に伊藤正氏がアシリベツ川から導水して、1千坪の養鯉池を開拓し、毎年、鯉の稚魚(ドイツ鯉、真鯉、緋鯉)1万尾を養殖し釣り堀を営業しましたが、冷水が災いし数年で中止しました。

伊藤正氏は、更に1955年(昭和30年)からアシリベツの滝下流域で池25面750坪に虹鱒の稚魚10万尾を毎年放って飼育し、販売と釣り堀を経営しました。

これに続いて、山女魚の養殖場や、虹鱒の養殖場が開業しましたが、1980年(昭和55年)に滝野すずらん丘陵公園建設のために買収され、総て廃業し、現在は公園内に行楽のための釣り堀が営業しているに過ぎません。

この他に、石山八区で、1985年(昭和60年)から中村氏が山女魚と虹鱒を養殖し行楽客を相手とする釣り堀を営業しています。

本願寺道路(有珠新道)

交通

石山開拓の基礎を作ったのは、1871年(明治4年)に開通した本願寺道路です。

この道は、現在の230号線とほぼ同じ場所を経由していました。

経路は、伊達紋別～尾去別～長流川～有珠山～洞爺湖～壯瞥～定山渓～簾舞～平岸で、1870年(明治3年)に東本願寺の現如上(聖)人(当時19才)が100余人の門徒と共に渡道して開設しました。

馬車道開通(札幌～石山～定山渓)

1976年(明治9年)に馬車道が石山から札幌まで開通し、それまで、馬の背で運搬していた石材は、金輪の馬車で、運搬するようになりました。

この馬車道は、1886年(明治19年)に定山渓まで延長されました。

1903年(明治36年)には、常磐1号橋より常磐新橋まで、細道が開通したと伝えられていますので、石山から常磐新橋まで道がつながったのは、この頃からです。

馬鉄とトロッコ

1909年(明治42年)には、石山より札幌まで馬車鉄道(馬鉄)が開通しました。これに合わせて、常磐神社下より石山までトロッコ軌道が敷設され、石材や木材の運搬は勿論のこと、人々の往来にも利用されました。

トロッコ軌道に使われました枕木が常磐一区の東正治氏宅に残されており、レールが中川利光氏宅に保存されています。

トロッコ軌道は、1913年(大正2年)に撤去され、その跡地に常磐道路が設けられましたが、軌道盛土の一部は、今も残っています。

交通網の整備

1918年(大正7年)に定山渓鉄道が開通し、1938年(昭和13年)には、豊平峡までバス路が開通し、更に、1960年(昭和35年)には、中央バスが滝野まで運行を開始し、交通機関が整備されました。1972年(昭和47年)には、冬季オリンピックに合わせて、道道札幌支笏湖線の舗装が完成し、現在は国道453号線として交通量も多くなり、1986年には石山高架橋ができるとともに多くの人の利便に供されております。

教育

1899年(明治32年)、石山尋常小学校が認可され、石山四区地区に始めて教育の灯がともりました。

現在の石山東地区町内の子弟も通学に大変な苦労をしながら義務教育を終えています。

1902年(明治35年)に滝野に厚別器械場教育所、1910年(明治43年)常磐地区に土場特別教育所が開設され子弟の教育が細々ながら続けられてきました。

この地区は110年以上に及ぶ教育の歴史が続いており、このことは我々住民の誇りとして、その伝統を守っていきたいものです。

終戦後間もなく駒岡小学校が開校、常磐中学校が石山中学校の分校として開設しました。

滝野小中学校は児童生徒数の減少と教育施設の充実を願って、常磐小学校(昭和46年)と常磐中学校(昭和44年)に統合されました。

石山見晴・石山東地区の人口が急速に増加するに及んで昭和61年石山東小学校が開校され又常磐中学校も独立校舎ができ(昭和60年)通学区域の変更で石山東小学校の卒業生も同校に通学するようになりました。

その他幼稚園(2園)、高等専門学校(現市立大学)・養護学校が開設され、いずれの学校も、緑豊かな、山や川のある落着いた教育環境の中で教育活動が展開されており、喜ばしいことあります。以下、各学校等のようすを簡単に紹介します。

●札幌市立駒岡小学校

▶開校 昭和24年3月31日

和46年滝野小学校が合併され、昭和60年、人口の増加に伴い、中学校が分離し、常磐小学校として、現在歌われている校歌ができました。平成元年にそれまでの札幌最古の木造校舎が全面改築され、現在の校舎になりました。その後、本校は芸術の森地区の地域を見続け、大正5年から今日まで3,300名余の卒業生を輩出してきました。

平成27年は開校100周年として、7月には教育実践発表会を開催し、広く市内の教育関係者の方々に子どもたちの姿と授業を見ていただき、御批正をいただき、授業改善に努めています。また、10月には開校100周年記念式典・祝う会・祝賀会を開催することになっており、長年の皆様の温かい御厚情に感謝申し上げ、今後の変わらぬご協力をお願いするものであります。

現在の校章は昭和32年に制定され、学力と体力の育成と子どもたちを見守り、育んできた真駒内川の清流を表しています。

校木の「いちい」は、本校の玄関前に伸びております。長い年月子どもたちを見守っており、また、地域の方々の温かい見守りや声掛け、活動への御理解・御協力のもと、本校は北国の風雪に耐え、強くたくましい子どもの育成に努め、恵まれた自然環境と数々の教育施設を利用し、地域に根差した特色ある教育を推進していきます。

●札幌市立常磐小学校

▶開校 大正5年4月10日

▶学級数14 ▶児童数319名 ▶教職員数23名

明治43年12月石山尋常小学校附属土場特別教授場として認可。翌、明治44年4月より教授場が開始されました。その後、大正5年土場教育所として独立、大正6年公立土場尋常小学校となりました。その後、昭和16年、土場国民学校になり、戦後、昭和21年現在地に新築され、昭和22年に常磐小学校と校名が変更されました。と同時に、石山中学校常磐分校として併置され、昭和26年にこれが常磐中学校となり小中併置校となりました。その後、昭和36年札幌市立常磐小中学校となり、昭

また、たてわり班活動(みずなら活動)もさかんで、給食や清掃、全校音楽、運動会や全校宿泊学習などで、1年生から6年生がグループになり、一緒に活動しています。このような活動を通して、上学年の子どもたちのリーダーシップが育ち、そ

れが下学年の子どもたちにも受け継がれていくこと、そして、子どもたち同士が共感的にかかわることを大切にしている学校です。

●札幌市立石山東小学校

▶開校 昭和61年4月1日
▶学級数6 ▶児童数112名 ▶教職員数14名
本校は、西に石山碎石丘陵と東に流れる真駒内川とにはさまれた、豊かな自然の中にあります。「ひとりひとりを大切にし 温かみとうるおいのある学校」を学校教育目標に、知徳体の調和のとれた子どもの育成を目指しています。

開校以来、大切に引き継がれている取組として「ふれあい活動」があります。これは、全校を4色12グループに分けた縦割り班活動です。集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、豊かな学校生活を送ることができます。1年を通して活動しています。

平成18年からは、「子どもを見守る会」が組織されました。21年には小学校区合同防災訓練が行われ、27年には土砂災害・全国統一防災訓練の会場となりました。開校30周年を迎える、小規模校ならではの温かい雰囲気の中、地域の方々に見守られ、子どもたちの教育を推進しています。

●札幌市立常盤中学校

▶開校 昭和26年
▶学級数8 ▶生徒数258名 ▶教職員数25名
昭和22年豊平町立石山中学校常盤分校として開設、昭和26年豊平町立常盤中学校として分離独立し、常盤小学校と併置されました。昭和36年札幌市立常盤中学校と改称し、昭和60年待望の独立校舎が完成し今日に至ります。その際、石山東地区まで校舎が拡大され、生徒数も一挙に増加し、プールやテニスコートなど教育環境も徐々に整備されました。平成8年から始まった「芸術の森地区音楽祭」も今年で20年目を迎え、地域に愛される行事となっています。学校教育目標を「あいで『生きる』」と定め、「自ら学ぶ喜び、共に生きる喜びを実感できる教育活動の推進」を学校経営の重点として、生徒の健全な育成に努めています。

●札幌市立大学

▶開学 平成18年4月1日
▶大学院博士前期課程 平成22年4月1日開設
▶大学院博士後期課程 平成24年4月1日開設
▶学生数849名 ▶教員数76名

札幌市立高等看護学院と札幌市立高等専門学校の両校を母体に、デザイン学部と看護学部の2学部構成により、産業や芸術文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへの貢献とともに、地域看護の充実など、市民の健康保持・増進への貢献を目指しています。芸術の森キャンパスでは、恵まれた自然環境の中、デザインと看護の連携を目指した共通教育や高度なデザイン専門教育を実施しています。

平成27年5月には、旧真駒内緑小学校に「地(知)の拠点：C O C キャンパス」をオープンし、地域志向の教育・研究・社会貢献を展開し、協奏型社会のウェルネス支援、地域の活性に貢献する人材の育成に取り組んでいます。地域のみなさまとともに、地域創成の拠点化をめざし、積極的な活動を進めてまいります。

●北海道社会福祉事業団もなみ学園

▶開園 平成18年4月1日
▶児童定員60名 ▶職員数29名
北海道立もなみ学園として昭和25年1月1日に川沿地区に開園しました。昭和30年の火災により焼失し、現在の石山東3丁目に現在の学園が移転開園しました。

平成18年4月、北海道からもなみ学園の管理・運営について社会福祉法人北海道社会福祉事業団に移譲され、「北海道社会福祉事業団もなみ学園」に名称変更し、平成27年に10年目を迎えることになりました。

北海道立もなみ学園から北海道社会福祉事業団もなみ学園に平成18年4月1日前零時に鍵が引き渡され、職員も総入替のスタートとなりました。

また、地域で生活される障がいを持つお子さんに対して平成18年9月から児童ディサービスとして療育を行ってきました。平成24年4月に児童福祉法による障害児通所支援事業として児童発達支援と放課後等児童ディサービスに区分され、「も

なみ」の名称で新たなスタートを始めました。

「全ては子どものために」という志を持ち、何よりも子どもの利益を最優先に考える施設を目指して、健やかに育つための支援と地域の子どもたち、家族への支援を学園の目標としてよりよい支援を続けてゆきたいと考えております。

●北海道札幌養護学校もなみ学園分校

昭和39年4月、「もなみ学園」内に札幌養護学校分教室（小・中学部6学級、児童生徒32名、教職員22名）として開設され、養護学校義務制施行に伴い、昭和54年4月、「もなみ学園」に併設する＜札幌養護学校もなみ学園分校＞として開校しました。昭和60年に現校舎が完成、平成12年度に高等部開設、平成17年度に現高等部校舎が増築されて現在に至ります。

平成27年度は、児童生徒93名（小・中・高等部22学級）が在籍しています。「丈夫な体をつくる」「表現する力をつける」「豊かな心をはぐくむ」を学校教育目標として、子どもたち一人一人の発達を支え、地域社会で自分らしさを生かして生活する力を育てるなどをめざし教育活動を推進しています。

平成28年4月、新設校の開設に伴い＜北海道札幌伏見支援学校 もなみ学園分校＞と校名が変わります。

●札幌市常盤児童会館

▶開館 平成4年
▶月平均利用者数 1,062名 ▶職員数6名
児童会館は、乳幼児と保護者、小学生から高校生までの子どもたちが利用でき、遊びを通して健康増進と情操を豊かにするとともに異年齢集団の中で遊びを通して、地域におけるお子さんの交流をより一層深めることができる施設です。

●いしやま中央幼稚園

▶開園 昭和52年12月5日
▶園児数109名（5クラス） ▶教職員数12名
1977年、現在の石山1132番地に学校法人まゆみ学園、いしやま中央幼稚園として設立。豊かな自然環境のなかで「自分の力で考え、行動できる子どもを育てる」ことを目標に、モンテッソーリ教育や戸外活動など、5つの重点教育活動に沿って教育を行っています。

地域の皆様に支えられ開園から38年目を迎える今日、幼稚園の原点である幼児教育を第一しながら、少子化や核家族化など様々な社会環境の変化のなかで、子育て支援事業など新しい事業を通じて地域社会に貢献していきたいと考え活動を行っています。

●ときわみなみの幼稚園

▶開園 平成3年4月1日
▶園児数 165名 ▶教員数18名
本園は緑に囲まれ、広い園庭、広いグラウンド、冒険の森、ちびっこ農園など、豊かな環境に囲まれた幼稚園です。一日の流れの中で遊び（自主活動）の時間を十分に確保する、環境設定保育を行っています。また、11時からは、職業カリキュラム（9領域）にそって、みんなでする活動を行っています。特に、「体育・食育・知育」の三本柱で幼児期に必要な活動をバランス良く行っています。また、自園調理、預かり保育、未就園児教室、体育教室、英語教室等、子育て支援、地域開放も行っています。

文化

芸術の森地区連合会では、平成7年より文化祭が開催され、また、音楽祭は平成8年より開催されています。

地域的には文化施設等に恵まれないなかで、個人の趣味や技能を磨かれているようすがいま見られます。

芸術の森の施設が完備充実してきました最近は、文化的行事も数多く催され、特に音楽、美術関係は世界的な催しがもたれ、多くの住民がこれにふれています。

地元住民や愛好家は、間近かにこれらに接する事ができ、住民の文化向上に最良の糧となっています。

また、老人クラブ（見晴寿会・石山明正会・常盤未来・常盤明常会・アートパークタウンななまど会・サンブライト寿楽会・駒岡寿会）では区老連の芸能発表会に積極的に参加するため日々研鑽を積んでいます。

スポーツ

平成7年芸術の森地区町内会連合会が独立するにあたり、それまで石山スポーツ振興会に所属していた見晴、石山東、石山八区による新組織の結成が図られ、これに真駒内駒岡、駒岡団地を加えて、芸術の森東地区スポーツ振興会が設立されました。同年7月石山東小学校体育館を同振興会の自主管理で（継続）開放され、地区内の体育振興、健康増進と利用者相互の親睦・交流に寄与しています。

常盤地区にも、昭和49年常盤体育振興会が設立され、空沼岳清掃登山を始め様々な活動・支援を続けています。同会主催スノーフェスティバルの実施には常盤小学校PTA地区委員会が大きな力を発揮しています。地区住民の体育向上、親睦のため努力しており、その功績は高く評価されています。又中学生部活動の援助、スポーツ少年団、各種スポーツサークルの指導及び援助等年々好成績を残しております。特に夏の地区対抗大運動会・ソフトボール大会・冬のスノーフェスティバルの実施は全住民に呼びかけての大規模なもの

で、主催者の苦労がしのばれます。

常盤小学校の体育館を振興会の自主管理で開放し、多種目のスポーツ愛好者のために提供し併せて利用者相互の親睦交流をはかり好評を得ております。

芸術の森地区周辺は丘陵地帯であることもあります。ゴルフ愛好家には最高の地域であります。東方面に定山渓CC駒岡コース、しらかばゴルフ場、南方面には真駒内CC・滝野CC・常盤台ゴルフ場があり恵まれた環境といえます。

以上のことから、私達の地域はスポーツ環境の恵まれたところと自負していいと思います。

各老人クラブでは、パークゴルフが盛んで各種大会にも参加し優秀な成績を収めている事も付記しておきます。

常盤公園・石山緑地・真駒内川緑地や石山東公園には公式試合ができる野球場とテニスコートが設置され多くの住民が利用しております。

**各種
団体****●芸術の森地区社会福祉協議会**

開設 平成7年5月
(芸術の森地区会館)
平成7年に芸術の森地区連合会が石山地区連合町内会から分離独立し、これに併せて、芸術の森地区社会福祉協議会が設立され、本年、創立20周年を迎えました。初代会長の櫛引清和氏の並々ならぬ努力と歴代会長ほか役員の方々の相互協力及び関係機関の支援と指導等により事業が推進され、地区社協の発展の礎となり、現在に至っております。

主な変遷見ますと、
・平成7年度～12年度（初代会長 櫛引清和氏）
　地区社会福祉協議会の開設、福祉のまち推進センターの開設（平成10年4月）、悩み事相談「ふれあいコール」開設（平成11年3月）、広報誌「ばんけいぬま」発刊（平成10年12月）

　札幌市社会福祉協議会長賞受賞（平成11年6月）
・平成13年度～22年度（二代会長 伊藤 正氏）
　「もりの仲間の3大事業」（子育てサロン、三世代交流、さわやかクラブー介護予防）の開

設（平成17年4月～）、「高齢者生活実態アンケート」実施（平成17年6月）、各町内会「福祉推進委員会の組織化」の推進（平成20年～）、「社協と福まちの組織改編」「福まち運営要綱の制定」など（平成21年5月）

・平成23年度～26年度（三代会長 堀川昭八氏）

「会の構成、役員と職務、選出方法の明確化、会議の見直し並びに要綱との整合性」を図る一部改正：役員推薦委員会及び表彰弔慰内規作成、福まちセンター委員会部統合による4部体制ほか、会と福まちの運営の組織見直し（平26年5月）

・平成27年度～（四代会長 塩田 恒雄氏）

「記念誌」「記念講演」（27年度）、「記念式典・祝賀会」（平成28年度）

などが、挙げられます。

急速に進む少子高齢化・核家族化等に伴い、ゴミ出し、除雪などの生活支援にかかるニーズがますます高まる中、孤独死・消費者被害など福祉課題が複雑化し、また、今まで以上に町内会毎の見守り・訪問活動は、重要視されることから、今後、課題解決に向け、札幌市、社会福祉協議会、地区連合会（各町内会）ほか関係機関と密接な連携を深め、役員一同が一丸となり、叡智を結集し、「安心して安全に暮らせる福祉のまち」を目指して、地域福祉の向上に努めてまいりたいと思っております。

今後とも、一層のご協力ご支援をお願い致します。

●芸術の森地区民生委員・児童委員協議会**概 要**

芸術の森地区民生委員・児童委員協議会（以下略して民児協）は厚生・労働大臣ならびに札幌市長より委嘱を受けた芸術の森地区民生委員・児童委員によって構成される組織です。

身 分

地方公務員法での非常勤の特別職
(ハンドブック13p 6)

設 立

平成7年芸術の森地区連合町内会が石山地区連合町内会から分離設立を機に芸術の森地区社

会福祉協議会・芸術の森地区青少年育成委員会・その他団体と共に分離設立21年目になります。
活動地区

国道453号線を含む芸術の森地区町内会連合会に属する13町内会を活動地域としています。
委 員 数

民生委員 15名（男性11名、女性4名）

主任児童委員 2名（女性2名）

合 計 17名

主要データ

老人人口割合（係数はH27.4.1現在）

人 口 10,919人

内老年人口 3,399人（65歳以上）

芸術の森 31.1%

会 長

齋藤 公博（平成7年12月委員委嘱、平成19年12月会長就任）

歴代会長

櫛引 清和 氏（平成7年～平成11年10月）

高橋 稔一 氏（平成11年11月～平成19年11月）

活動内容

月例会 每月最終木曜日（休日・12月は協議）

年1回 施設見学研修会（予定）

毎年1月 研修会兼新年会

その他 芸森民児協運営要綱、部会運営規定、内規、民生委員・児童委員ハンドブック、民生委員・児童委員必携等の活動内容、お一人暮らし高齢者見守り訪問、65才以上高齢者宅訪問、生活保護申請者訪問、障害者見守り、子ども虐待等見守り等福祉に関する業務

そ の 他

平成19年8月 全国民生委員協議会会长表彰受賞
平成20年11月 厚生労働大臣表彰受賞

●芸術の森地区青少年育成委員会

当委員会は、地域において子供達の健全な育成に関する実践活動を推進するため、市長から選任を受けた全市約1,800名の委員が、地域においてさまざまな事業を実施しています。さて、芸術の

●創立20周年記念誌編集委員会●

森地区青少年育成委員会は、平成7年に石山地区から独立して20年間、地域の子供さんたちと様々な活動を通して地域の安全安心に心がけ、子供さんの健やかな成長に役立てるよう活動してきました。活動に関わってきた委員は4年に一度の改選を経て延べ44名にのぼります(定員15名)。委員の大半は現役で仕事をされている方ですが、それぞれの役割を果たしてきました。でも、その苦労も子供さんたちの笑顔や元気をもらって乗り越えてこられました。

さて、当委員会も発足20年を迎え、成人を迎えたばかりです。この節目を期に更に充実した活動を目指して頑張ります。

ネット社会と言われる昨今、子供さんたちをどう守れるのか、そして元気できらきらと輝く目をどう守れるのか、他の団体や地域の方々と連携を図り勉強していきたいと思っています。

今後とも皆様のご理解とご協力宜しくお願ひします。

歴代会長

初代 安藤 晃
二代 吉澤 孝子
三代 前口 敦司

●南区老人クラブ連合会第7ブロック

南区老連第7ブロックは、芸術の森地区で以前から活躍している老人クラブが一つにまとまり、平成14年に発足いたしました。所属する老人クラブを設立順に挙げますと、「常盤明常会」(昭41)、「駒岡寿会」(昭51)、「石山明星会」(昭53)、「石山見晴寿会」(昭54)、「常盤未来」(昭62、本年4月、「常盤常生会」と「遊クラブ」が合併)、「サンブライト寿楽会」(平4)の6クラブで構成しています。会員数は395名で、平成26年度より22名増えており、全国的、全市的に会員の減少が目立つなか誠に喜ばしいことです。

第7ブロック全体で実施する行事としては、①「みんなで歩こう会」は参加者約80名で、常盤みはらし公園から保養センター駒岡までの約3キロを歩き、午後からカラオケを交えての懇親会で他クラブとの交流を深めています。②「パークゴルフ大会」は参加者約80名(男50名、女30名)で、

団体・個人戦で争われます。③「ふれあいの集い」は参加者約120名で、午前中は各クラブの演芸発表、午後はカラオケ合戦を繰り広げ懇親を深めています。④「交流研修会」は各クラブの役員が約40名参加して、当面の課題を掲げて情報交換しながら交流を深めています。

各クラブとも地域に根ざした特色のある活動を展開していますが、なかでも6クラブ中、4クラブが本年を含めた5年間に「全国老人クラブ連合会会長賞」を受賞したことです。平成23年、健康づくり部門で「常盤常生会」、平成24年、ボランティア部門で「サンブライト寿楽会」、平成26年、健康づくり部門で「石山見晴寿会」、平成27年、ボランティア部門で「常盤明常会」がそれぞれ受賞しました。この栄えある受賞は、南区老連(52クラブ)から僅か1クラブのみが理事会で推薦されるもので、この受賞された4クラブが全てこの第7ブロックに所属していることに大きな誇りと自信をもちつつ、今後もより一層地域や社会貢献のため会員一同努めていく所存です。

歴代会長

平成14年～15年 阪本 義信(サンブライト)
16年～21年 橋本 平吉(見晴)
22年～現在 吉田 育夫(駒岡団地)

島田 三千春 真駒内駒岡町内会

斎田 雅也 サンブライト真駒内町内会

馬場 宏 常盤一区町内会

堀川 昭八 石山東町内会

三上 良子 見晴町内会

大滝 盛弘 常盤一区町内会

火山 正己 アートパークタウン町内会

澤村 和美 アートパークタウン町内会

繁在家 公恵 サンブライト真駒内町内会

塩田 恒雄 常盤団地町内会



その他

太平洋戦争後の医療機関の充実は目を見張るものがあります。

昭和49年までの無医村地帯とも言えたこの地域に初めてみなみ病院が開院してから今日まで見晴、石山東、常盤二区地域を中心に増加し10病院を数える程になり充実してきました。外科・内科・精神科・泌尿科・歯科等診療科目も多彩で、住民にとって至便になりました。

・見晴町内会内の望豊台、石山東町内会の“せせらぎロード”、常盤一区と常盤台町内会の間を流れる小渓谷、常盤二区町内会内の空沼登山道、滝野町内会内のあしりべつの滝、鱈見の滝、不老の滝、白帆の滝さらには精進川沿いの清流は今後も大切に保護保存されなければならない遺産であります。

編集後記

平成7年、「芸術の森地区町内会連合会」創立(平成23年「芸術の森地区連合会」に改称)以来、早くも20年が経過しました。

この度、連合会構成の各主要団体及び各地区から互選された編集委員により、当記念誌を発行することができましたことについて、編集委員はもとより貴重な資料・写真をご提供いただいた多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

ご存知のように私たちの「芸術の森地区」は、主として行政上の理由から“離合集散”を見、一つ“開基”をみても明治の始まりから昭和の中頃までと、ほか地域的持性も多彩で、限られた紙面ではまとめ難いところから、構成は「10周年記念誌」を参考として編集させていただきました。

もちろん、連合会各団体の諸活動の参考としていただければ、幸甚このうえないところでございます。

創立20周年記念誌編集委員会
委員長 島田 三千春



発行日 2015年（平成27年）12月10日

編集・発行 札幌市南区芸術の森地区連合会
20周年記念誌編集委員会

印 刷 所 株式会社 迂孔版社
〒064-0927 札幌市中央区南27条西11丁目1-8
電話 (011) 561-5252

